

平成26年11月27日
総合評価方式の活用・改善等による
品質確保に関する懇談会

直轄工事における総合評価落札方式の実施状況 (平成25年度)



国土交通省 国土技術政策総合研究所

~ National Institute for Land and Infrastructure Management
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism ~

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)	1
(1)普及・拡大の状況	1
(2)新方式の試行状況	3
(3)高度技術提案型の実施状況	4
(4)1工事あたりの競争参加者数	5
(5)入札の状況(入札率の分布)	6
(6)入札の状況(「落札率」と「落札率－調査基準価格率」)	7
(7)技術評価の状況(入札参加者の技術評価点得点率の分布)	8
(8)技術評価の状況(入札参加者の技術評価点)	9
(9)落札者に占める技術評価点の最高得点者及び最低価格者の割合	10
(10)落札者に占める技術評価点の最高得点者・最高得点者以外、最低価格者・最低価格者以外の割合[簡易型]	11
(11)落札者に占める技術評価点の最高得点者・最高得点者以外、最低価格者・最低価格者以外の割合[WTO(標準型)]	12
(12)落札者の「落札率-調査基価格率」と「技術評価点の得点率」	13
(13)全入札参加者の「入札率-調査基価格率」と「技術評価点の得点率」	14
(14)落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の「入札率」及び「技術評価点の得点率」の差	15
2. 総合評価落札方式の実施状況(平成25年度)	16
(1)タイプの適用状況	16
(2)競争参加の状況	17
3. 入札の状況(平成25年度)	18
(1)入札率の分布	18
(2)「入札率-調査基準価格率」の分布	20
4. 技術評価の状況(平成25年度)	22
(1)技術評価点の状況(得点率の分布)	22
(2)技術評価点の状況(1位同点者数)	24
(3)技術評価点の状況(1位と2位の得点率の差の分布)	26
5. 総合評価の結果と落札者の特徴(平成25年度)	28
(1)落札者の内訳	28
(2)落札者の「落札率-調査基準価格」と「技術評価点の得点率」	30
(3)落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の「入札率」及び「技術評価点の得点率」の差	32
6. 総合評価の導入と工事成績評定点	34
(1)総合評価落札方式の実施率と工事成績評定点の変化	34
(2)総合評価のタイプと工事成績評定点	35
(3)工事成績評定点と技術評価点得点率	36

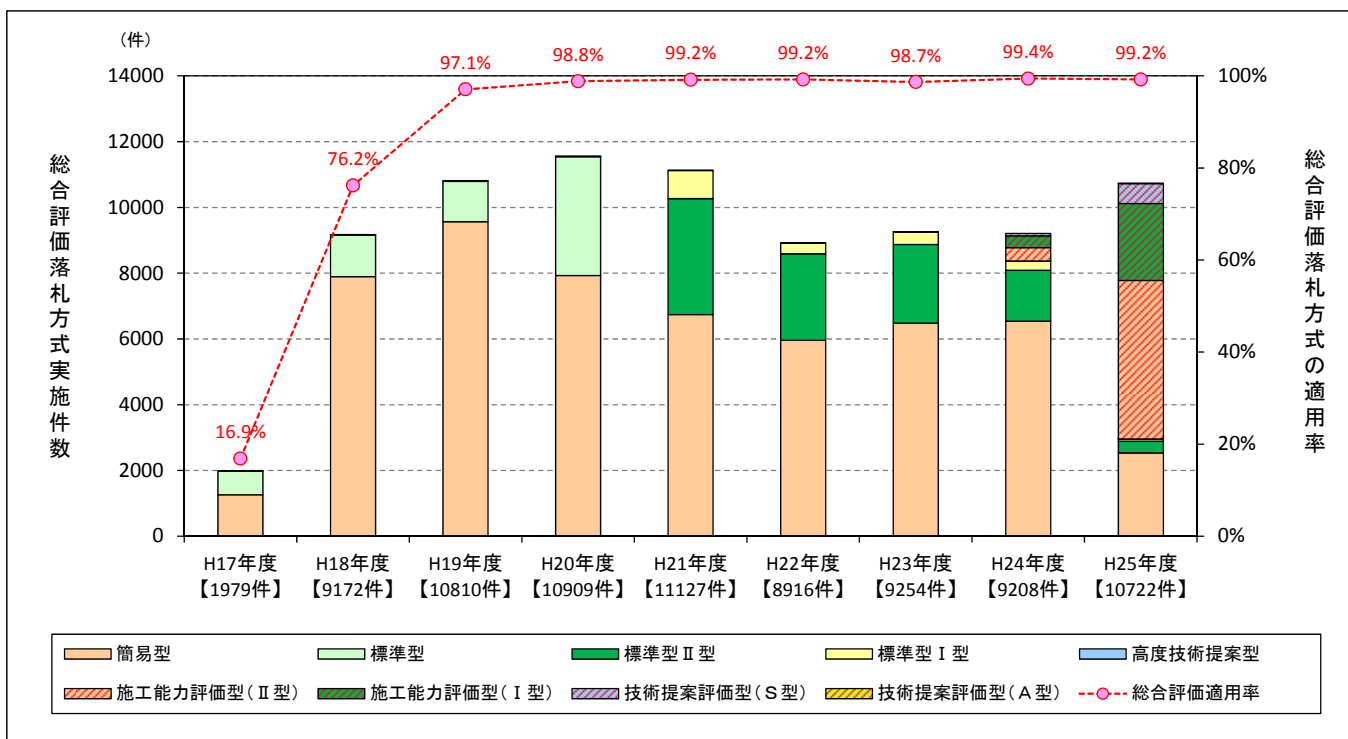
1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(1) 普及・拡大の状況

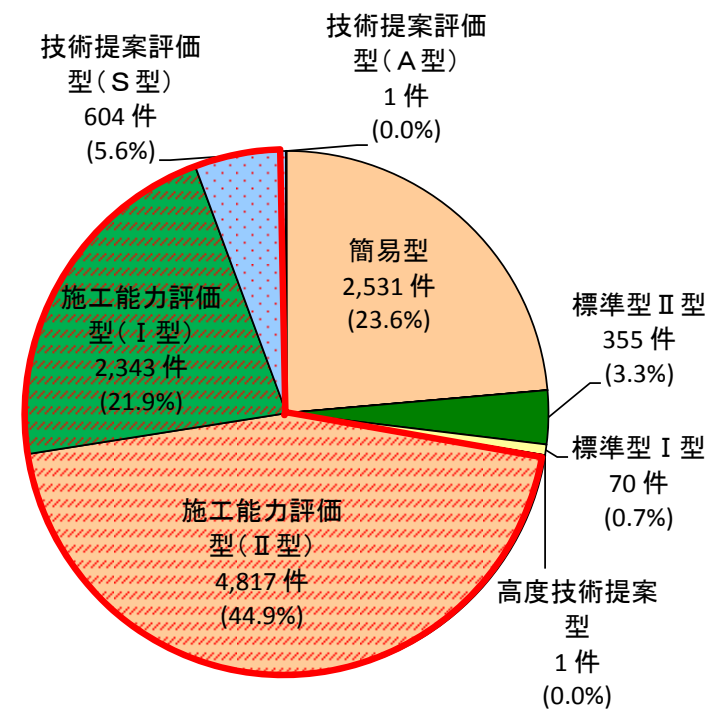
①実施件数

- 平成25年度において、総合評価落札方式の適用率は件数ベースで99.2%となり、ほぼ100%の適用状況となっている。
- 平成25年度において、タイプ別で最も多いのは施工能力評価型Ⅱ型の4,817件(総合評価落札方式全体に占める割合44.9%)である。
- 新方式(施工能力評価型、技術提案評価型)の合計件数シェアは72.4%であった。

〔実施件数(平成17年度～平成25年度)〕



〔件数シェア(平成25年度)〕



新方式:72.4%

注1) 8地方整備局の工事を対象(港湾・空港関係工事を含む)。

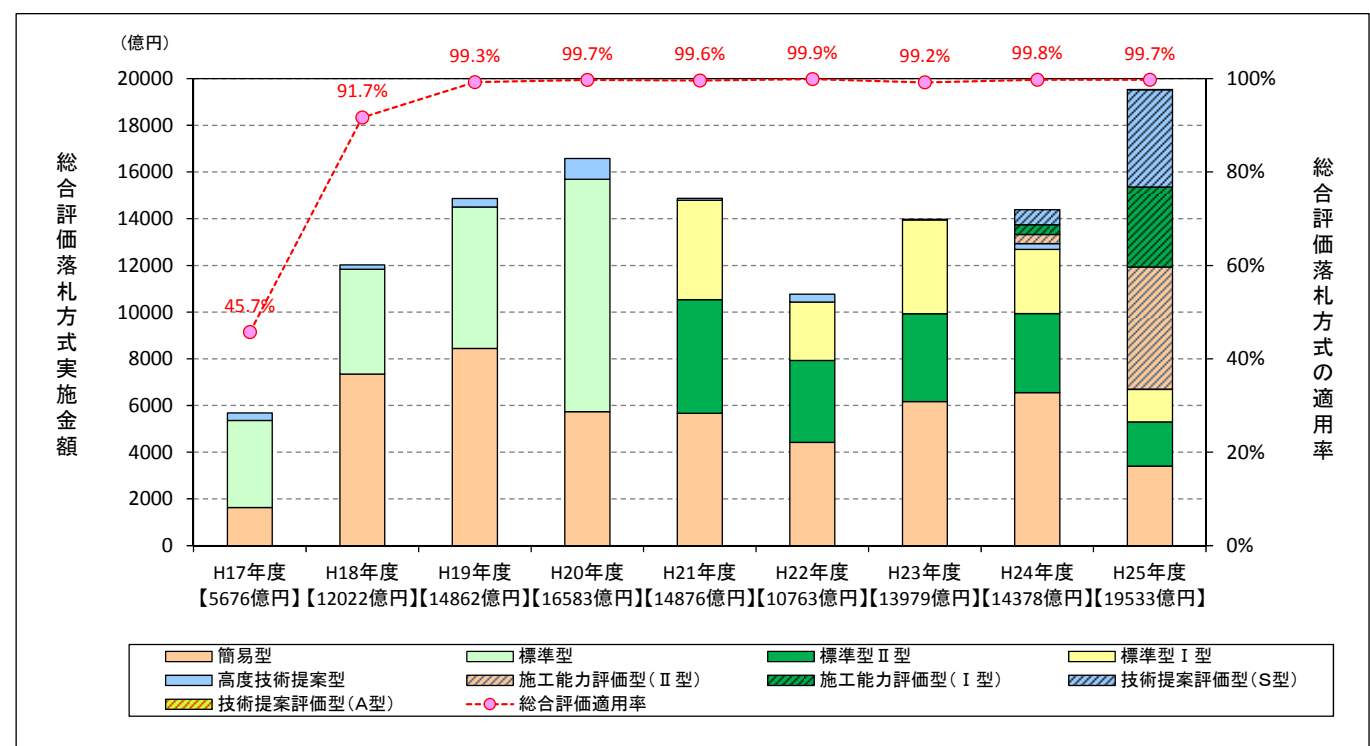
注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価落札方式実施件数の割合。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

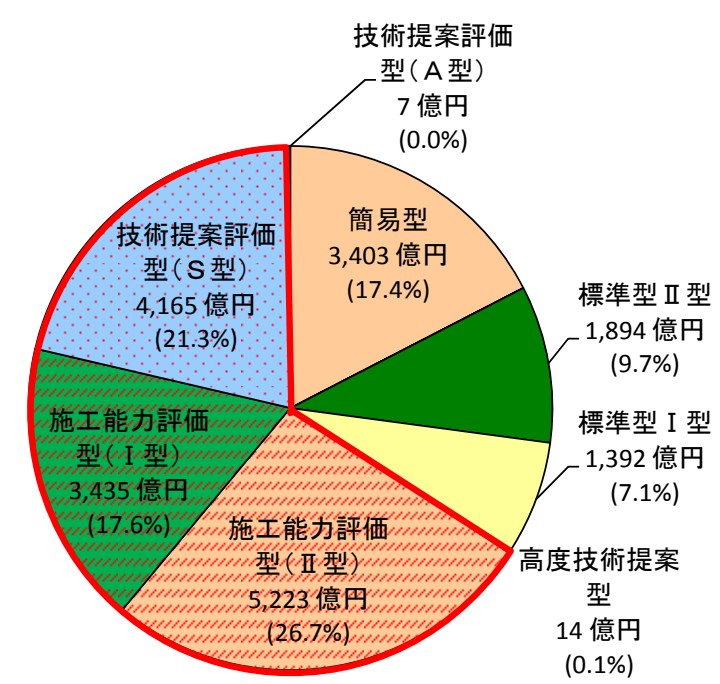
②実施金額

- 平成25年度において、総合評価落札方式の適用率は金額ベースで99.7%となり、ほぼ100%の適用状況となっている。
- 平成25年度において、タイプ別で最も多いのは施工能力評価型Ⅱ型の5,223億円(全体に占める割合26.7%)である。
- 新方式(施工能力評価型、技術提案評価型)の合計金額シェアは65.7%であった。

〔実施金額(平成17年度～平成25年度)〕



〔金額シェア(平成25年度)〕



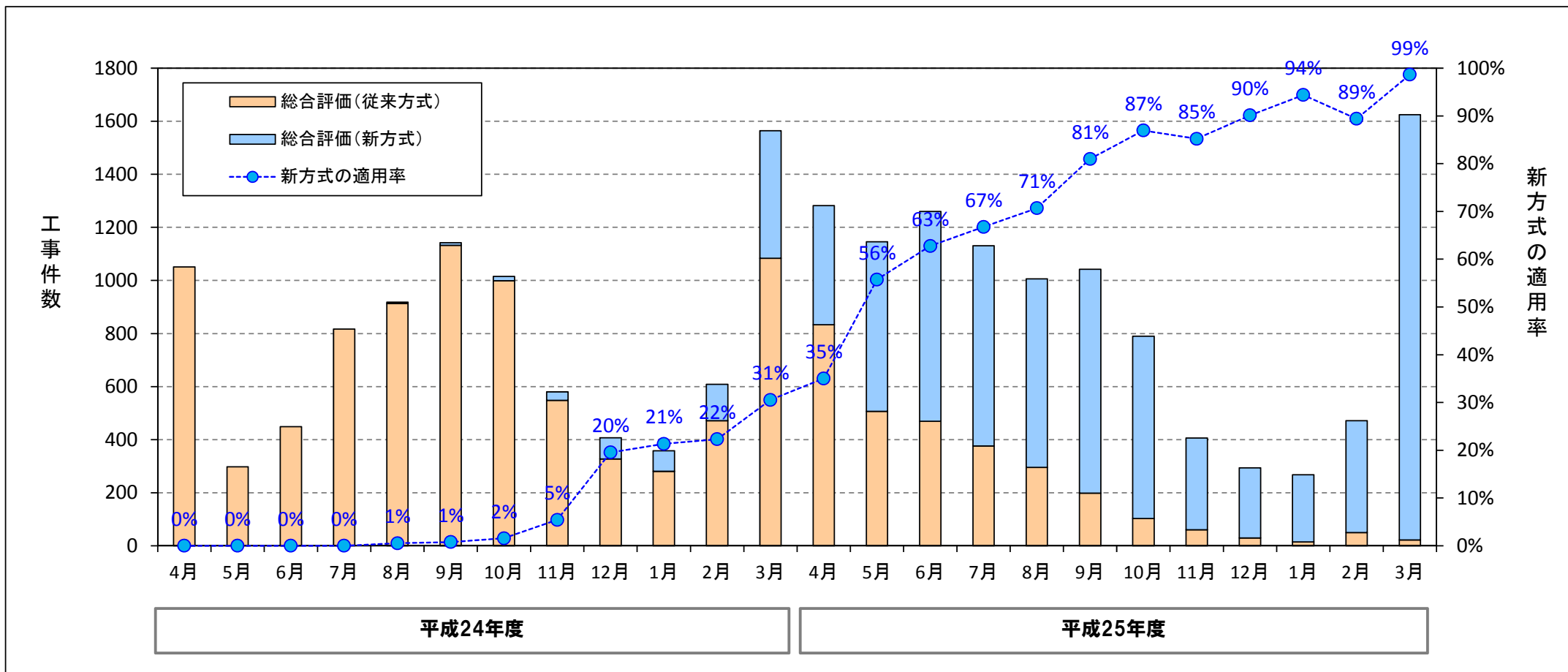
新方式:65.7%

注1) 8地方整備局の工事を対象(港湾・空港関係工事を含む)。
 注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価落札方式実施件数の割合。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(2) 新方式の試行状況

■ 平成25年4月の時点では35%であった新方式の適用率は、平成26年3月には99%となっており、新方式への移行が概ね完了している。



注1) 8地方整備局の工事を対象 (港湾・空港関係工事を含む)。

注2) 「総合評価(従来方式)」とは、簡易型、標準Ⅱ型、標準Ⅰ型、高度技術提案型のタイプを適用した工事、「総合評価(新方式)」は、施工能力評価型Ⅱ型、施工能力評価型Ⅰ型、技術提案評価型S型、技術提案評価型A型のタイプを適用した工事を示す。

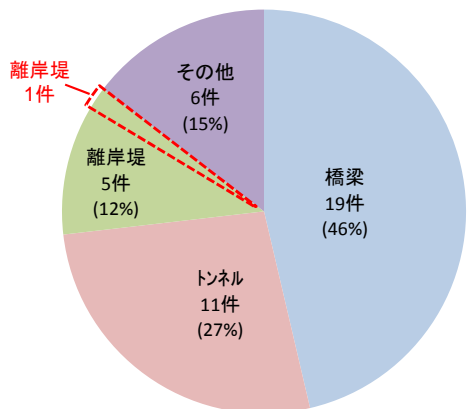
1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(3) 高度技術提案型/技術提案評価型A型の実施状況

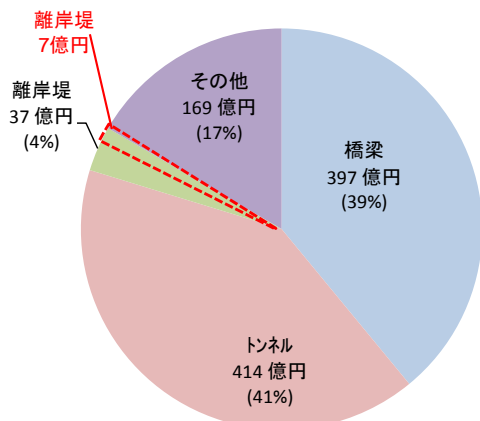
- 高度技術提案型Ⅱ型/技術提案評価型AⅡ型の適用は、橋梁、トンネルで全体の73%(件数)、80%(金額)となっている。
- 高度技術提案型Ⅲ型の適用は、橋梁、トンネル、ダムで全体の68%(件数)、85%(金額)となっている。
- 平成25年度は技術提案評価型AⅡ型と高度技術提案型Ⅲ型の計2件が適用されている。

〔高度技術提案型Ⅱ型/技術提案評価型AⅡ型〕

【件数】



【金額】



【工事区分】

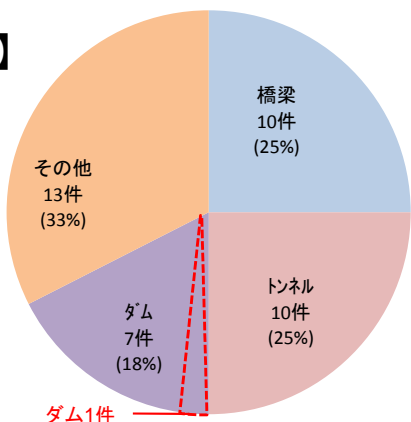
区分	件数	金額
橋梁	19件	397億円
トンネル	11件	414億円
離岸堤	5件	37億円
取水設備	1件	30億円
樋管改築	1件	6億円
建築	1件	6億円
地盤改良	1件	4億円
函渠	1件	122億円
砂防堰堤	1件	1億円
計	41件	1,017億円

【各年度の工事件数と金額】

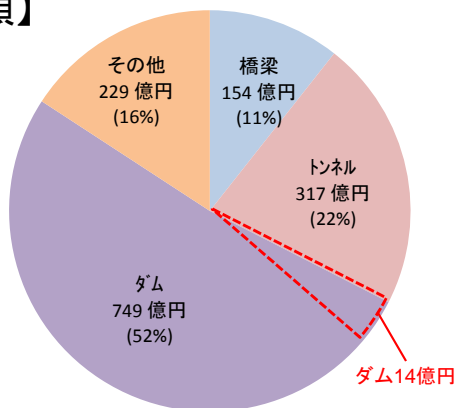
年度	高度技術提案型/ 技術提案評価型A型	件数	金額
H17	Ⅱ型	5件	119億円
	Ⅲ型	2件	199億円
H18	Ⅱ型	7件	134億円
	Ⅲ型	5件	51億円
H19	Ⅱ型	9件	188億円
	Ⅲ型	8件	165億円
H20	Ⅱ型	10件	271億円
	Ⅲ型	9件	625億円
H21	Ⅱ型	3件	20億円
	Ⅲ型	3件	70億円
H22	Ⅱ型	4件	133億円
	Ⅲ型	5件	194億円
H23	Ⅱ型	1件	23億円
	Ⅲ型	1件	11億円
H24	Ⅱ型	1件	122億円
	Ⅲ型	6件	120億円
H25	Ⅱ型	1件	7億円
	Ⅲ型	1件	14億円
計		81件	2,466億円

〔高度技術提案型Ⅲ型/技術提案評価型AⅢ型〕

【件数】



【金額】



【工事区分】

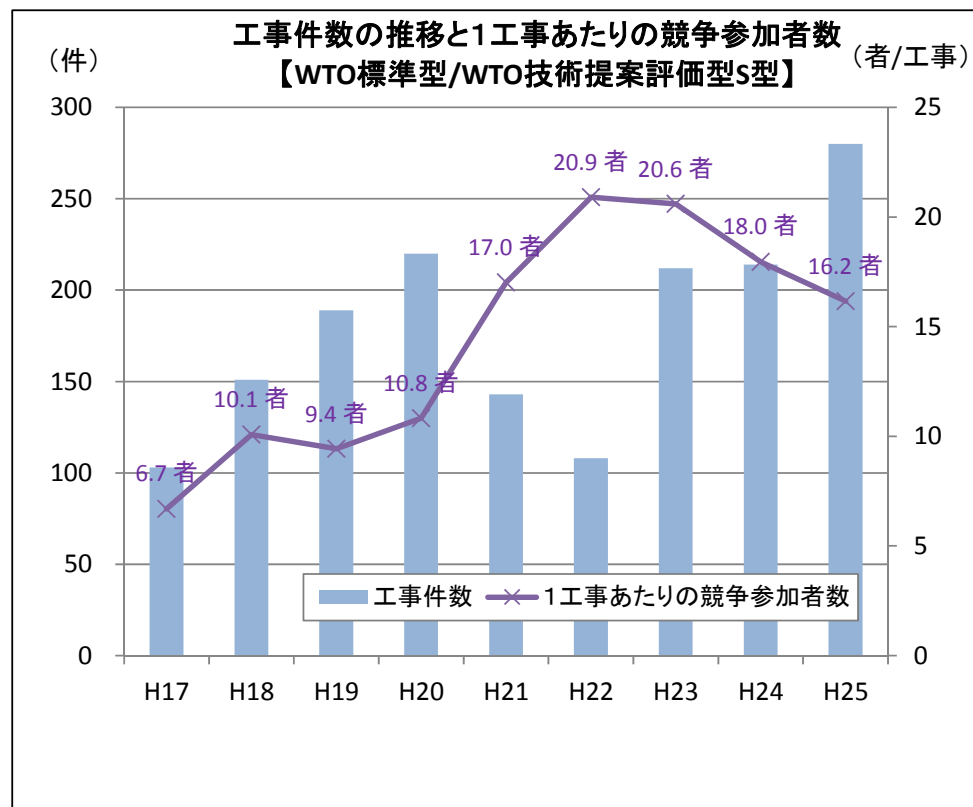
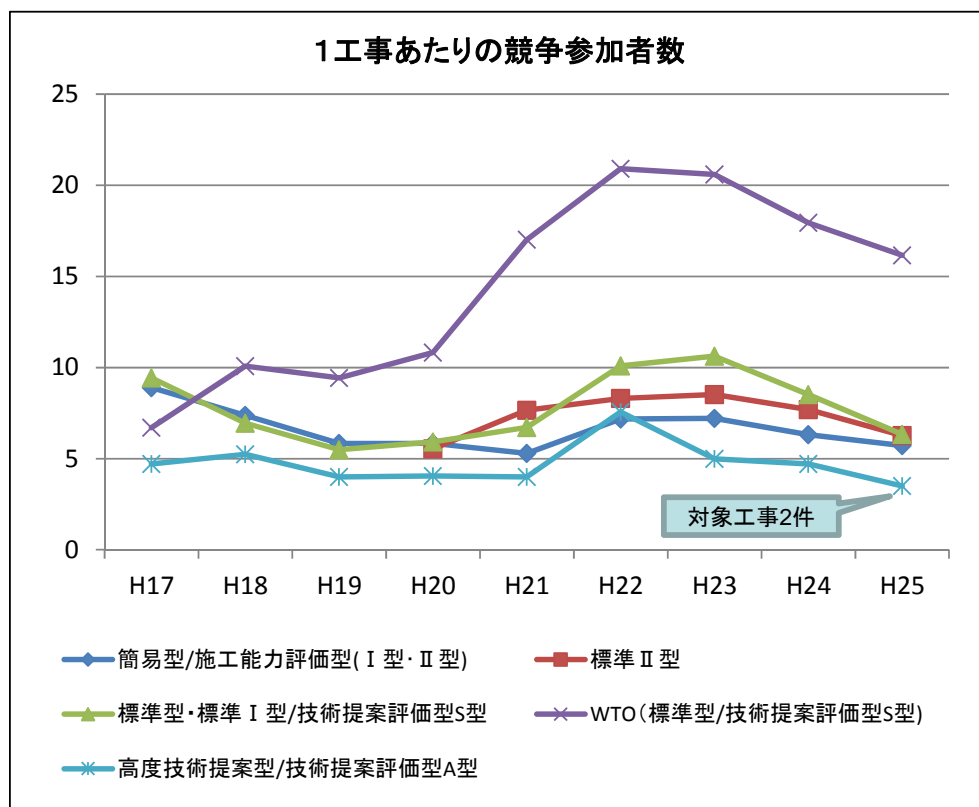
区分	件数	金額
橋梁	10件	154億円
トンネル	10件	317億円
ダム	7件	749億円
可動堰改築	2件	98億円
計測設備	2件	9億円
舗装	2件	4億円
建築	1件	40億円
U型擁壁	1件	32億円
箱型函渠	1件	14億円
土壌汚染処理	1件	15億円
高水敷造成	1件	11億円
構造物撤去	1件	2億円
排水機場	1件	4億円
計	40件	1,449億円

··H25年度案件

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(4) 1工事あたりの競争参加者数

- WTO(標準型/技術提案評価型S型)において1工事あたりの競争参加者数は、H20年度の10.8者からH22年度には20.9者と倍増していたが、その後は減少し、H25年度は16.2者となっている。
- WTO(標準型/技術提案評価型S型)の工事件数は、H21年度とH22年度は少なかったものの、H23年度以降はH20年度と同等の件数が発注され、H25年度には発注件数が増加している。



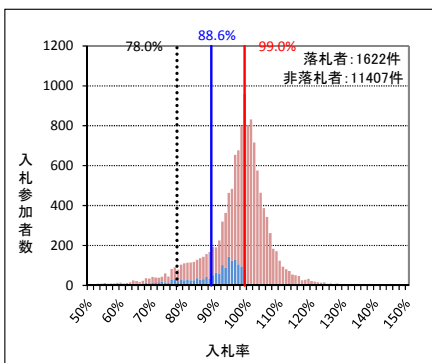
注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く) 注2) 価格競争を除く。 注3) 加算方式の工事を除く。
 注4) 「WTO(標準型)」は、標準型I型、標準II型のうち予定価格5.8億円以上の工事、「WTO技術提案評価型(S型)」は、技術提案評価型S型のうち予定価格5.8億円以上の工事を示す。(以後、同様)
 注5) 競争参加者数には、辞退・無効等及び予定価格超過者を含む。
 注6) 競争参加者数は、H22年度以前を7地方整備局で集計。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

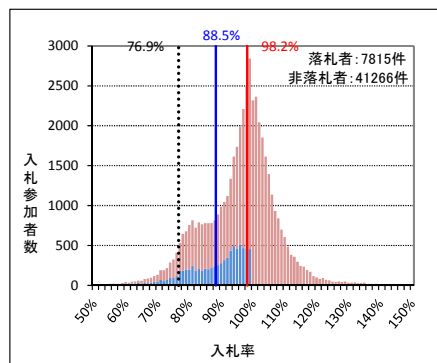
(5) 入札の状況(入札率の分布)

- 入札率は経年で下落傾向にあり、平成17年度時点には100%付近に集中していた分布が、H18年度から、調査基準価格付近での入札も目立ちはじめ、H21年度以降は調査基準価格付近がピークとなっている。
- ただし、調査基準価格の引き上げの影響もあって、落札率は90%付近で推移している。
- H25年度は、前年度までと比べて100%付近の入札率が若干増加している。

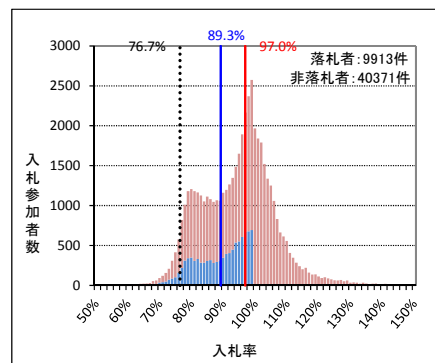
【平成17年度】



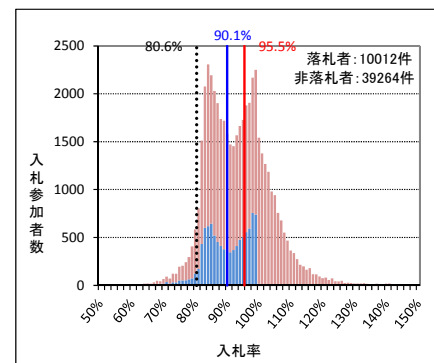
【平成18年度】



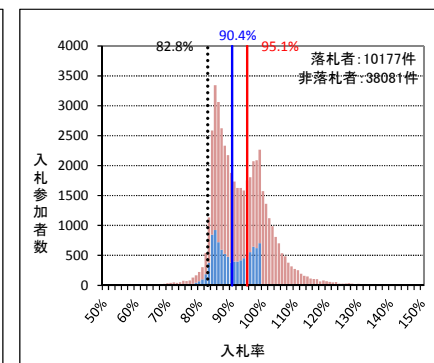
【平成19年度】



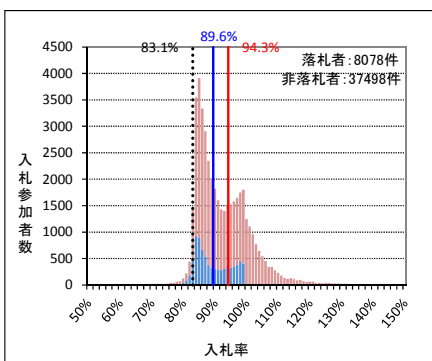
【平成20年度】



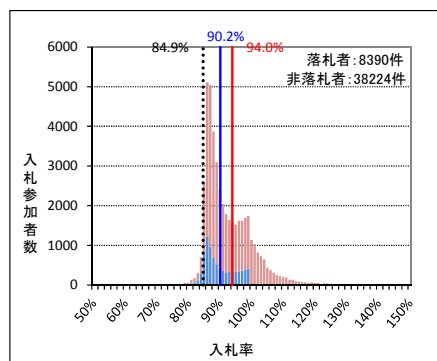
【平成21年度】



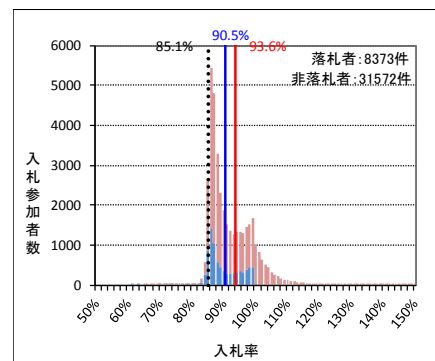
【平成22年度】



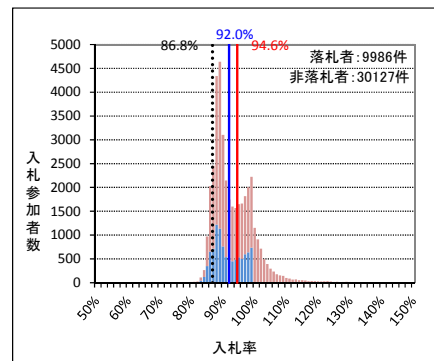
【平成23年度】



【平成24年度】



【平成25年度】



〔凡例〕 ■ 非落札者 ■ 落札者 — 落札者(平均) — 非落札者(平均) ⋯⋯ 調査基準価格率(平均)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
注2) 価格競争を除く。

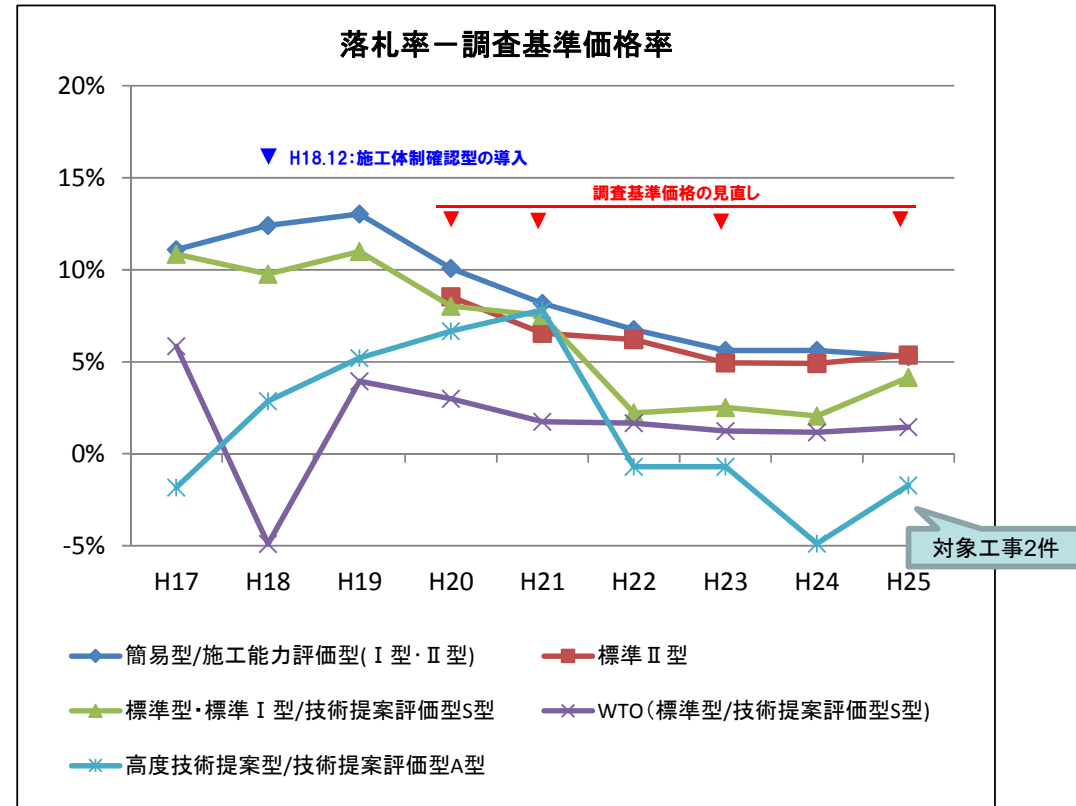
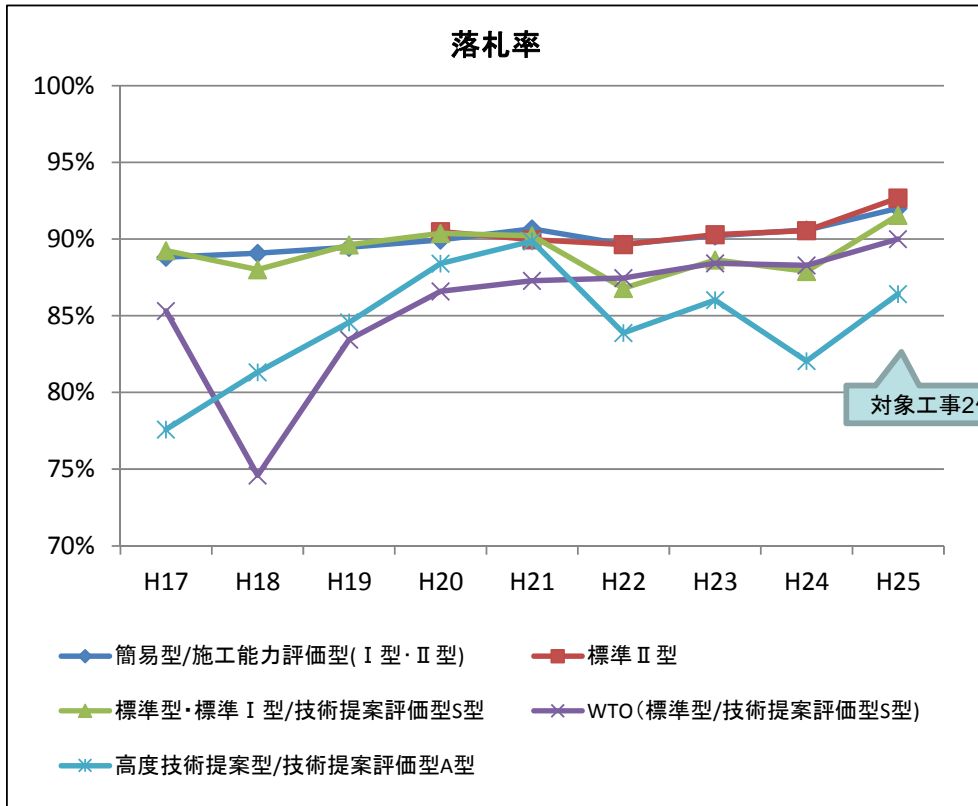
注3) 加算方式の工事を除く。
注4) 調査基準価格が設定されていない工事を除く。

注5) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(6) 入札の状況(「落札率」と「落札率-調査基準価格率」)

- WTO(標準型/技術提案評価型S型)の落札率については、H18年度以降上昇しているが、落札率と調査基準価格率の差はH18年度から縮小傾向にあり、近年は1~2%程度で横ばいである。
- また、他のタイプも落札率と調査基準価格率の差が横ばいである。



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注3) 加算方式の工事を除く。

注2) 価格競争を除く。
 注4) 落札率-調査基準価格率は、調査基準価格が設定されていない工事を除く。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(7) 技術評価の状況(入札参加者の技術評価点得点率の分布)

■ 技術評価点の得点率(各社の技術評価点÷技術評価点の満点)については、顕著な経年変化は見受けられない。

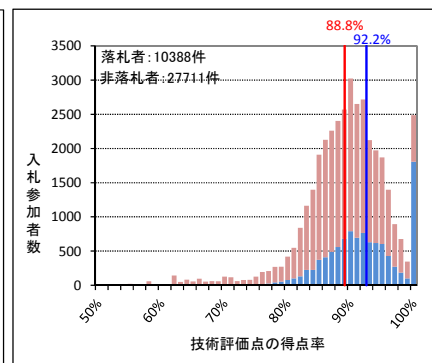
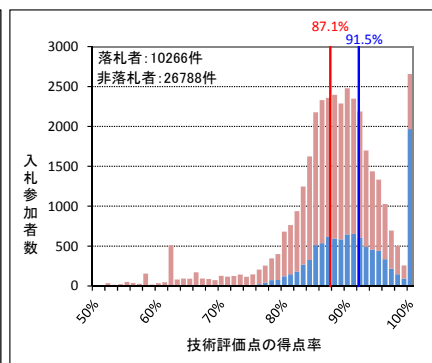
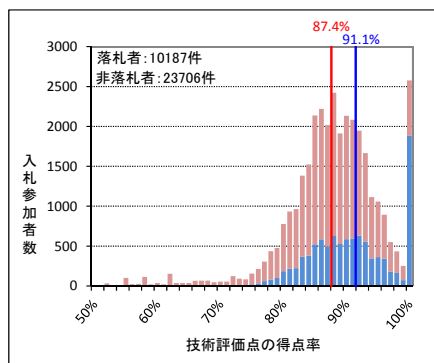
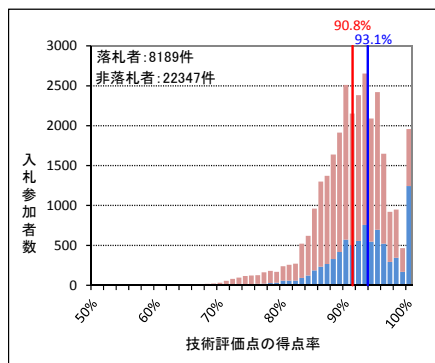
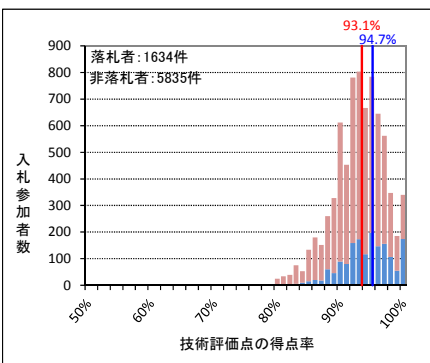
【平成17年度】

【平成18年度】

【平成19年度】

【平成20年度】

【平成21年度】

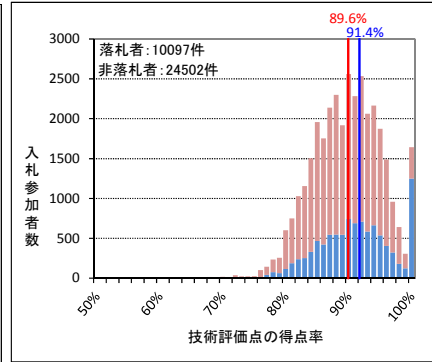
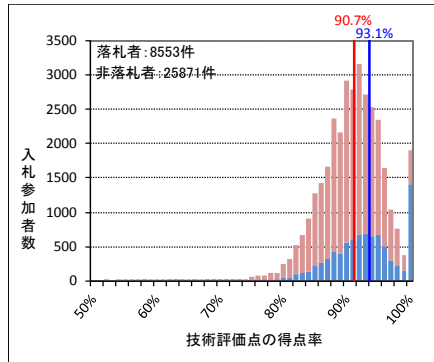
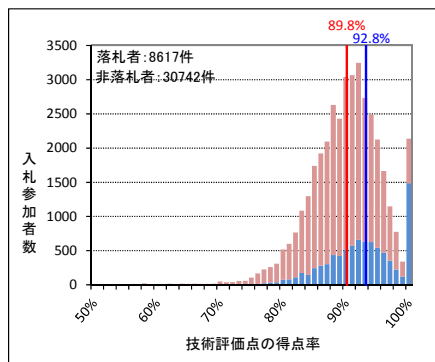
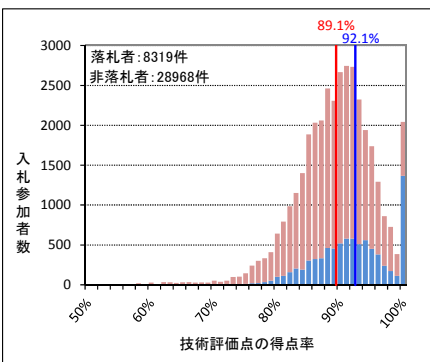


【平成22年度】

【平成23年度】

【平成24年度】

【平成25年度】



〔凡例〕

■ 非落札者 ■ 落札者 ■ 落札者(平均) ■ 非落札者(平均)

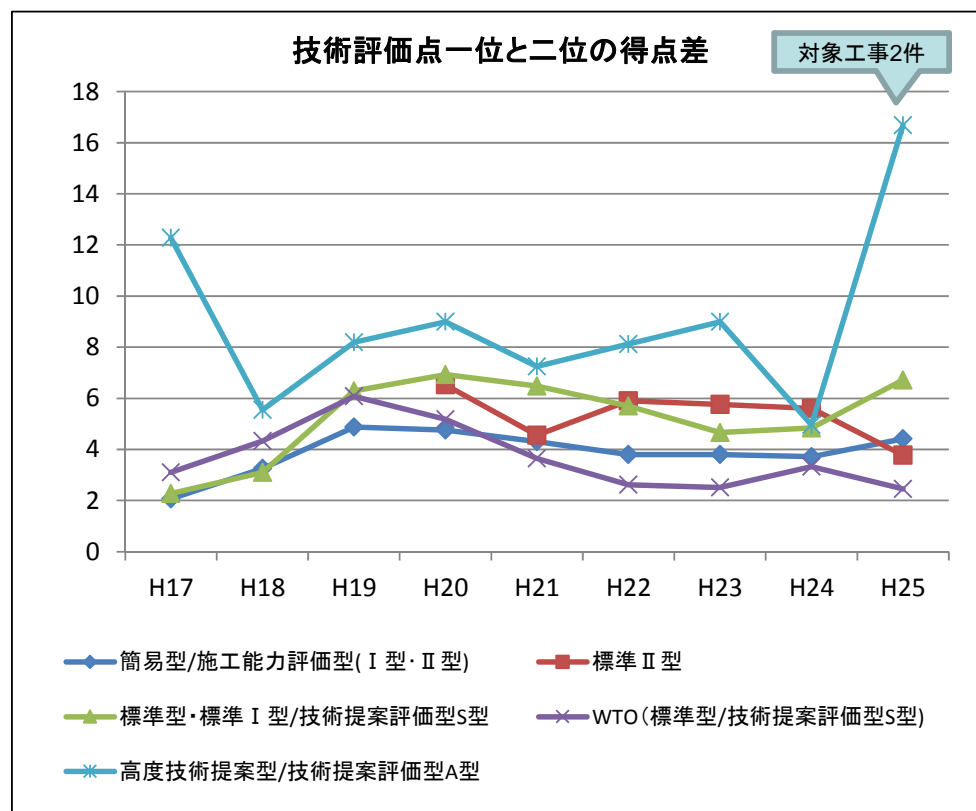
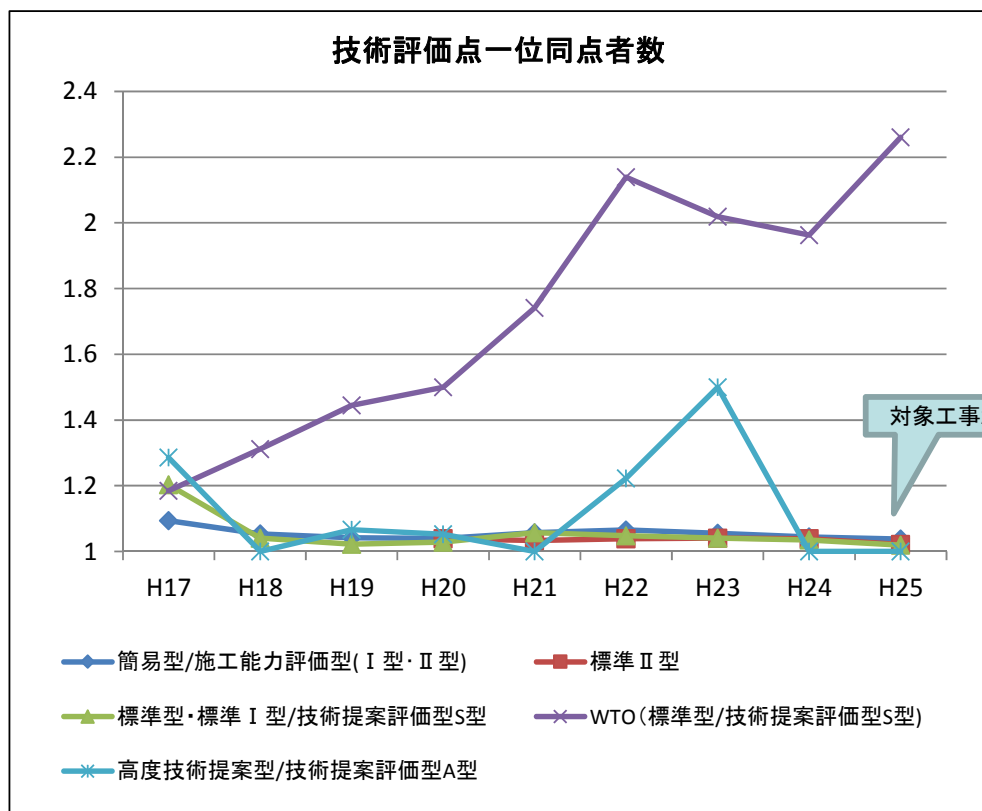
注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
注2) 価格競争を除く。

注3) 加算方式の工事を除く。
注4) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。(ここでは更に予定価格超過者を除く。)

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(8) 技術評価の状況(入札参加者の技術評価点)

- WTO(標準型/技術提案評価型S型)の技術評価点一位同点者数はH22年度までほぼ倍増し、H23年度とH24年度は一時減少していたものの、H25年度は再び増加している。
- 技術評価点一位と二位の得点差は、「標準型・標準I型/技術提案評価型S型」、「簡易型/施工能力評価型」において、経年で減少傾向にあったが、H24年度以降は増加傾向に転じた。



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)

注4) 技術評価点一位と二位の得点差は予定価格内1者の工事を除き集計。

注2) 価格競争を除く。

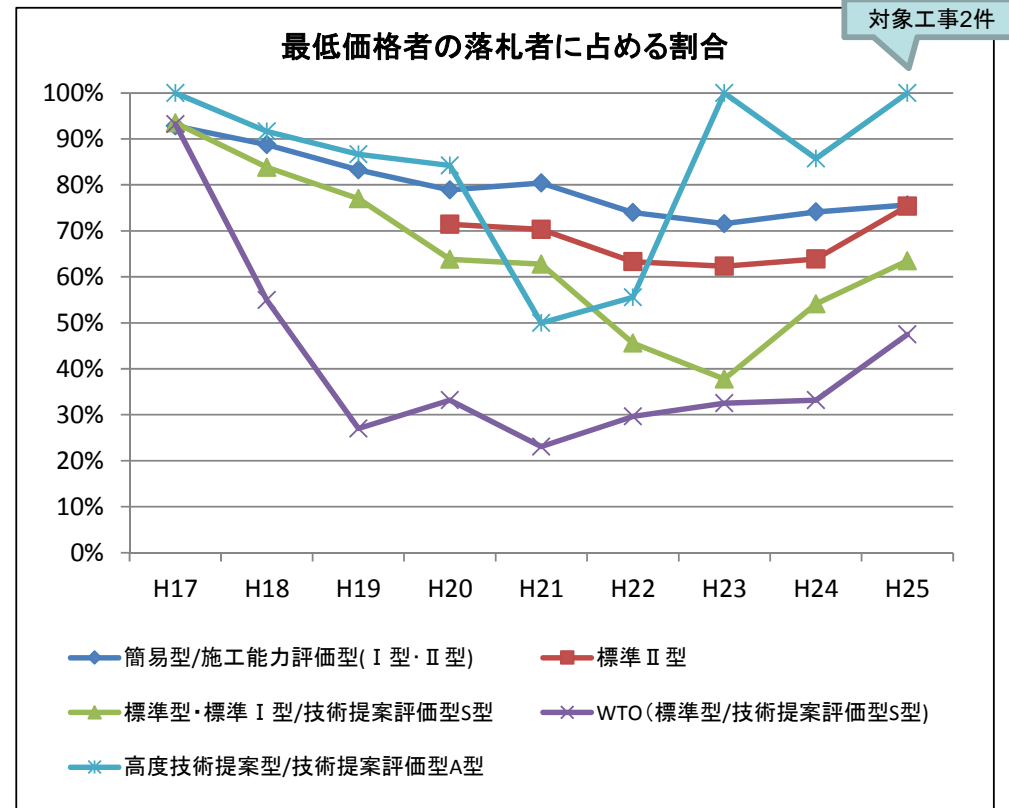
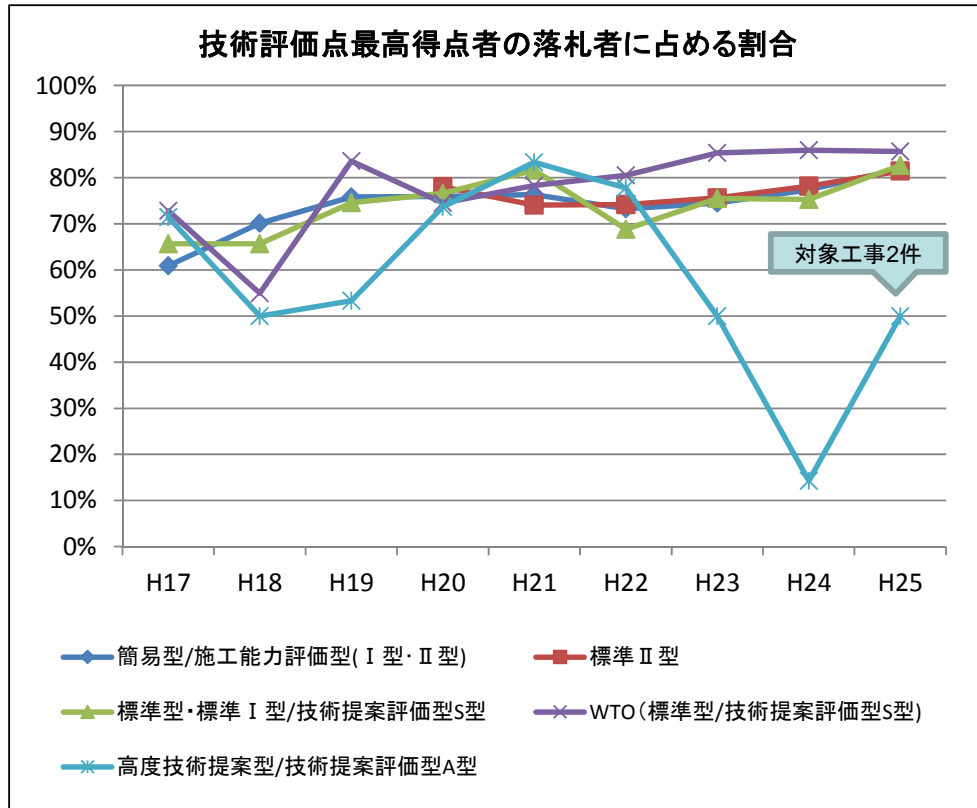
注3) 加算方式の工事を除く。

注5) 技術評価点の順位は、辞退・無効等及び予定価格超過者を除き判定。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(9) 落札者に占める技術評価点の最高得点者及び最低価格者の割合

- 落札者のうち、技術評価点の最高得点者の占める割合は増加傾向にある。
- 落札者のうち、最低価格者の占める割合はH23年度までは減少傾向にあったが、H24年度以降は増加傾向に転じている。



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く) 注2) 価格競争を除く。
注3) 加算方式の工事を除く。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(10) 落札者に占める技術評価点の最高得点者・最高得点者以外、最低価格者・最低価格者以外の割合 [簡易型/施工能力評価型]

■ 落札者のうち、技術評価点の最高得点者の占める割合は、H19年度以降は大きな変動がみられなかったが、H25年は82%に増加した。

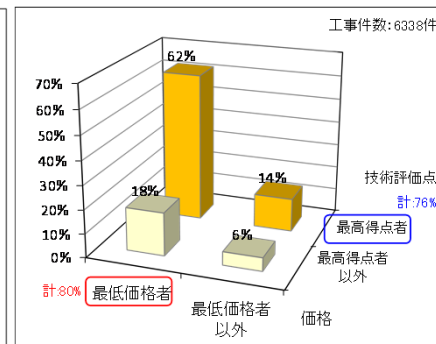
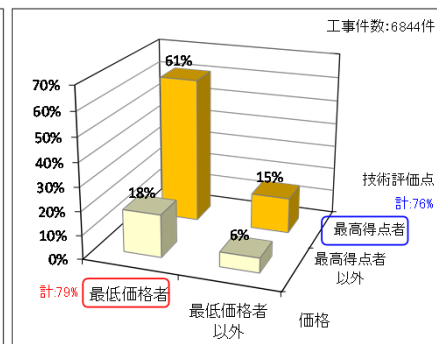
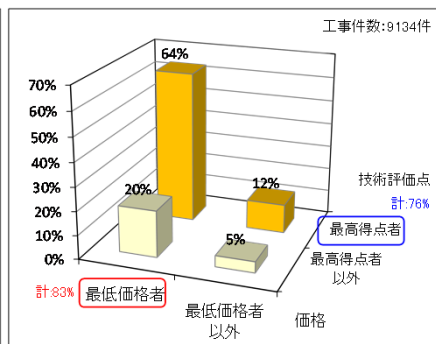
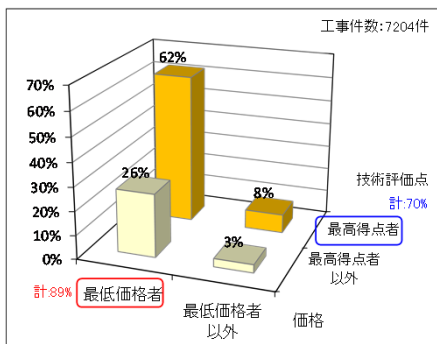
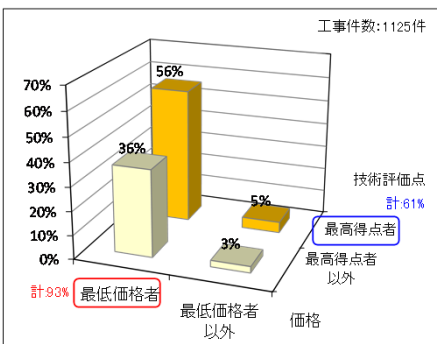
平成17年度

平成18年度

平成19年度

平成20年度

平成21年度

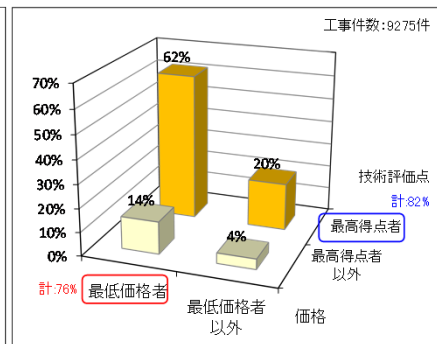
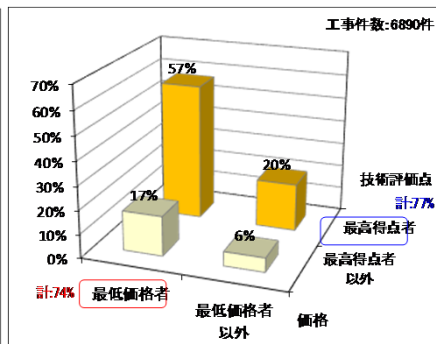
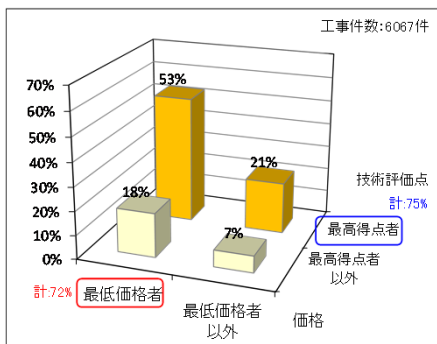
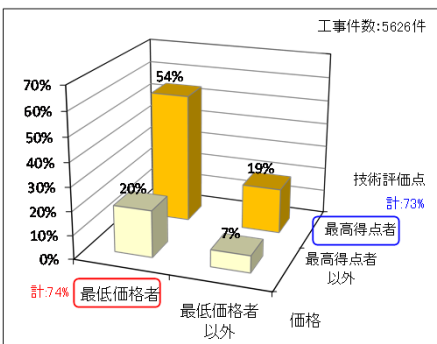


平成22年度

平成23年度

平成24年度

平成25年度



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 価格競争を除く。
 注3) 加算方式の工事を除く。

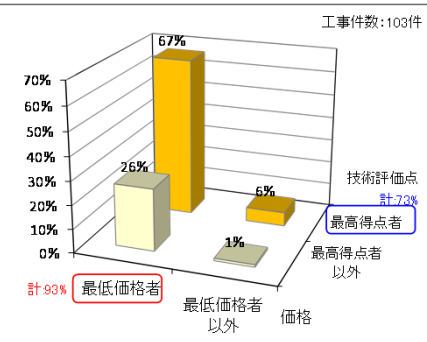
注4) 価格及び技術評価点の区分は、辞退・無効等及び予定価格超過者を除き判定。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

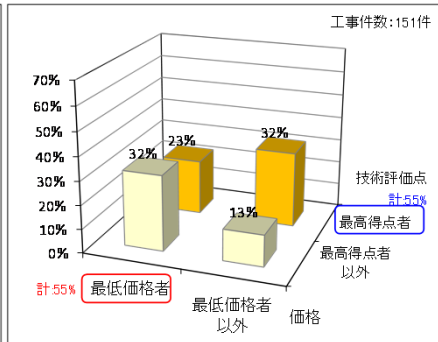
(11) 落札者に占める技術評価点の最高得点者・最高得点者以外、最低価格者・最低価格者以外の割合 [WTO (標準型/技術提案評価型S型)]

- 落札者のうち、技術評価点の最高得点者の占める割合は増加傾向にあり、H23年度以降は横ばいである。
- 落札者のうち、最低価格者の占める割合はH19年度までに大幅に減少し、その後は概ね横ばいであったが、H25年度に増加した。

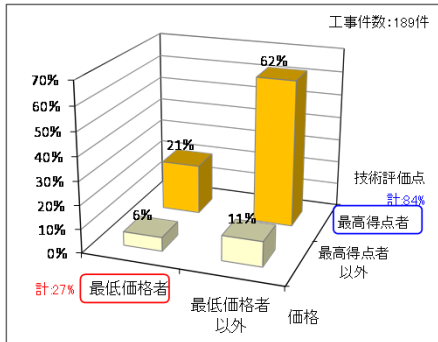
平成17年度



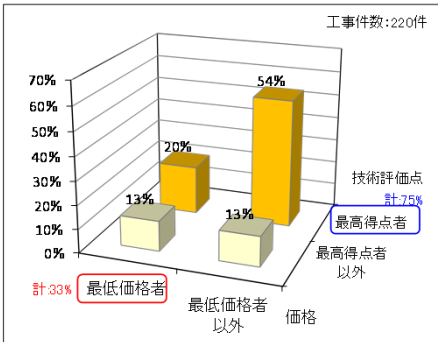
平成18年度



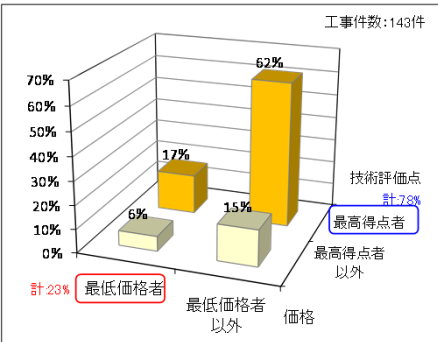
平成19年度



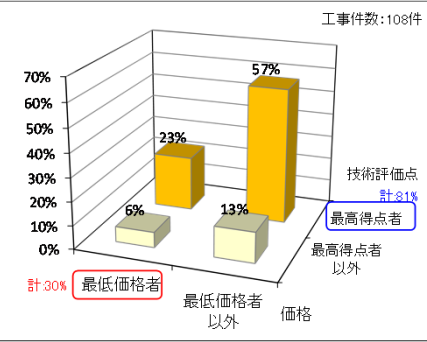
平成20年度



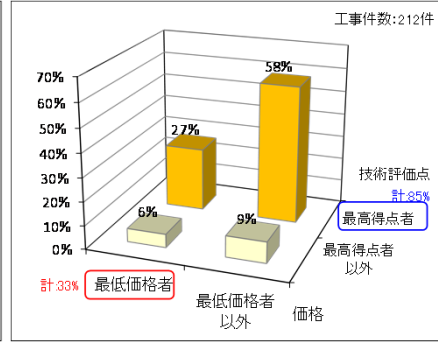
平成21年度



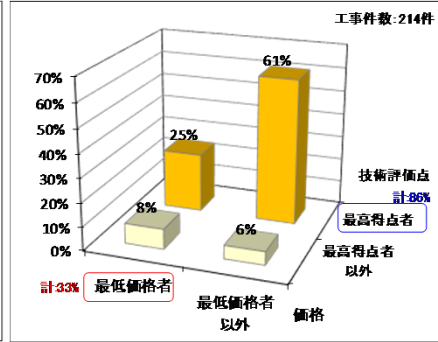
平成22年度



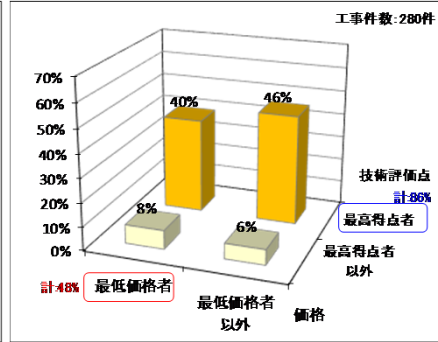
平成23年度



平成24年度



平成25年度



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 価格競争を除く。
 注3) 加算方式の工事を除く。

注4) 価格及び技術評価点の区分は、辞退・無効等及び予定価格超過者を除き判定。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

(12) 落札者の「落札率-調査基準価格率」と「技術評価点の得点率」

- 落札率と調査基準価格率の差は年々縮小しており、近年では調査基準価格付近の価格で入札が行われていることが確認できる。
- なお、技術評価点の得点率については、顕著な経年変化が見受けられない。

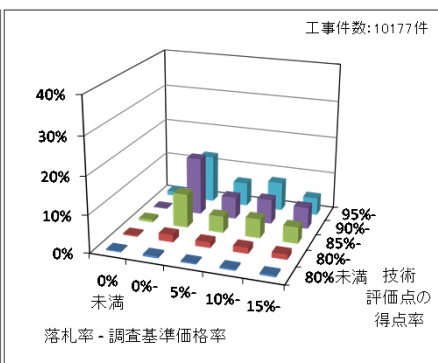
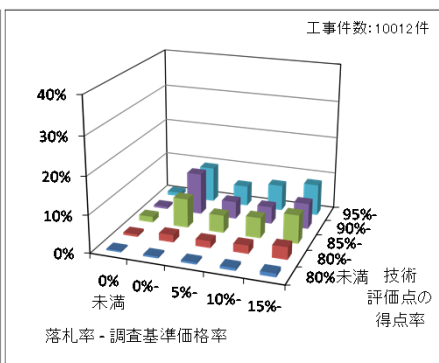
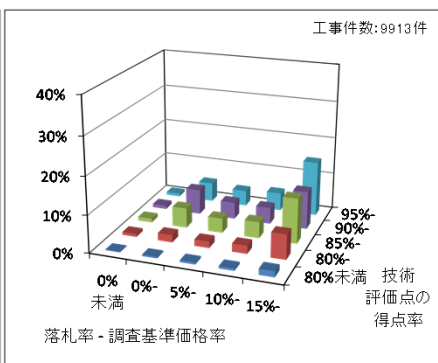
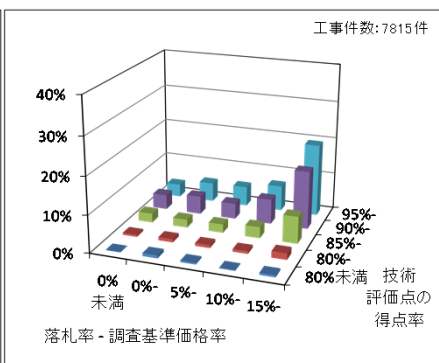
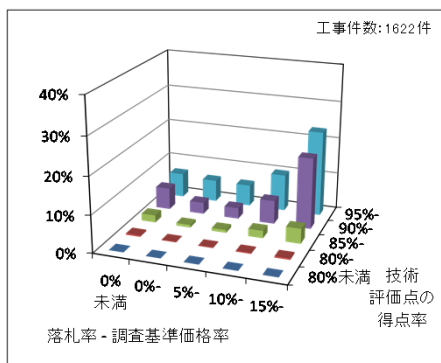
平成17年度

平成18年度

平成19年度

平成20年度

平成21年度

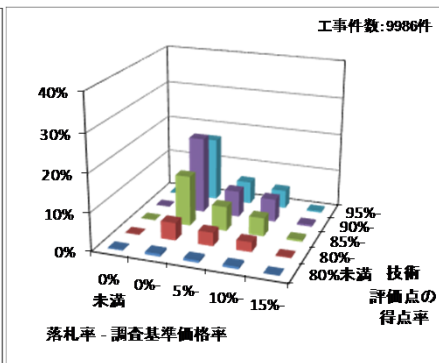
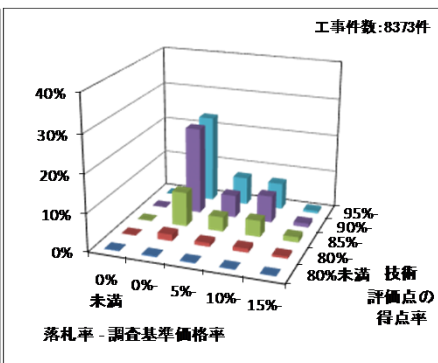
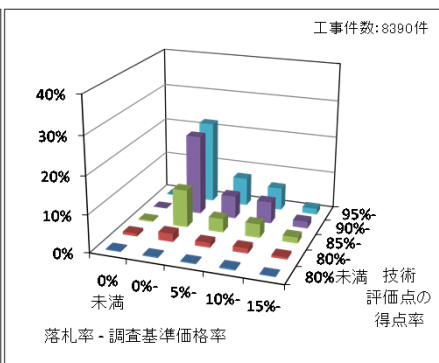
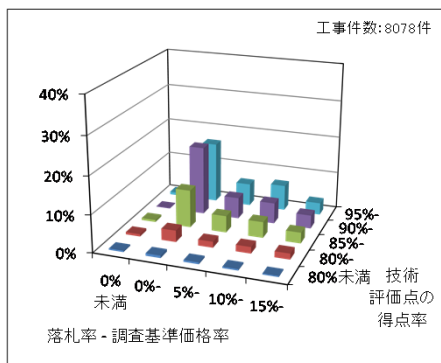


平成22年度

平成23年度

平成24年度

平成25年度



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
注2) 価格競争を除く。

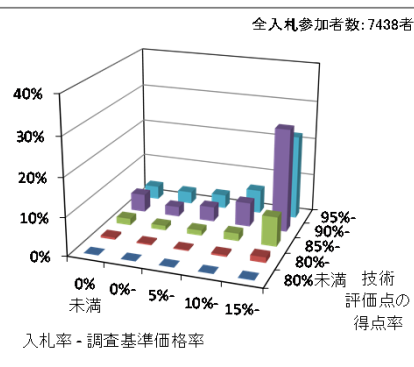
注3) 加算方式の工事を除く。
注4) 調査基準価格が設定されていない工事を除く。

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

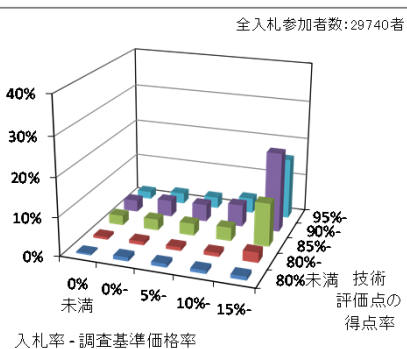
(13) 全入札参加者の「入札率-調査基準価格率」と「技術評価点の得点率」

■ 落札者と同様に、入札率と調査基準価格率の差は年々縮小しており、近年では調査基準価格付近の価格で入札が行われている。

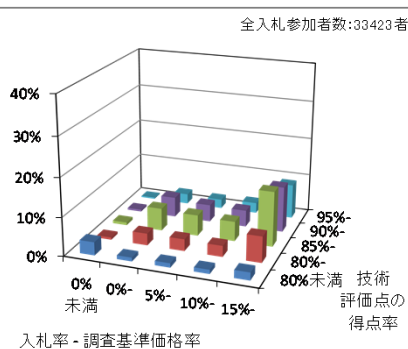
平成17年度



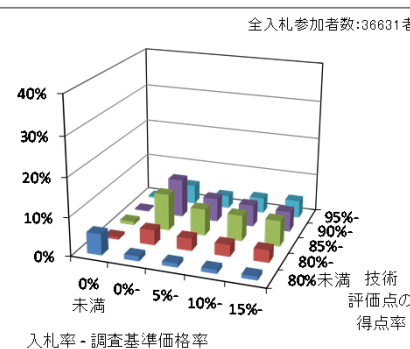
平成18年度



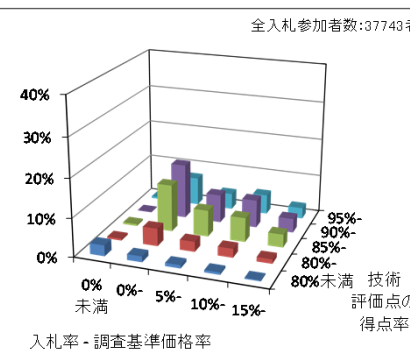
平成19年度



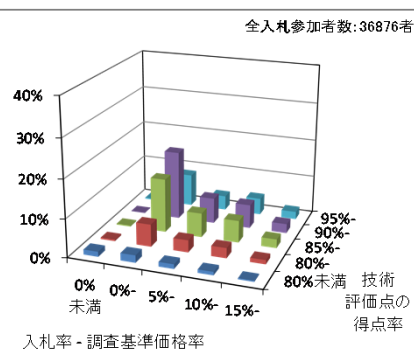
平成20年度



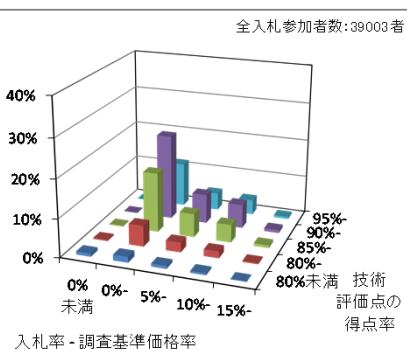
平成21年度



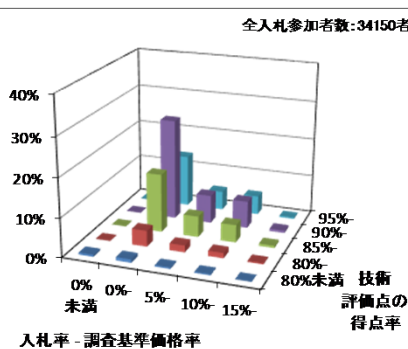
平成22年度



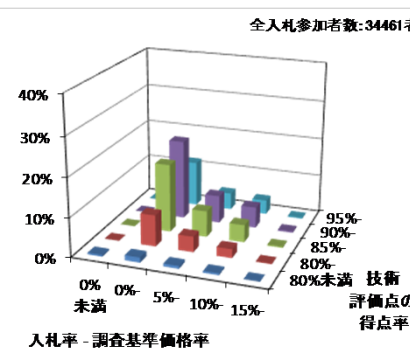
平成23年度



平成24年度



平成25年度



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 価格競争を除く。
 注3) 加算方式の工事を除く。

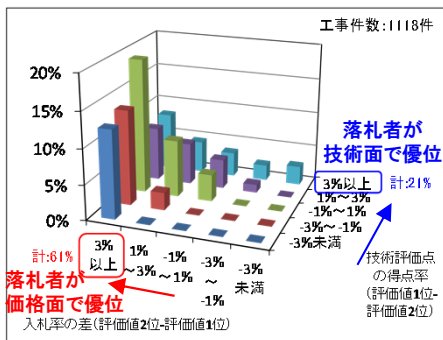
注4) 調査基準価格が設定されていない工事を除く。
 注5) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。(ここでは更に予定価格超過者を除く)

1. 総合評価落札方式の実施状況(経年変化等)

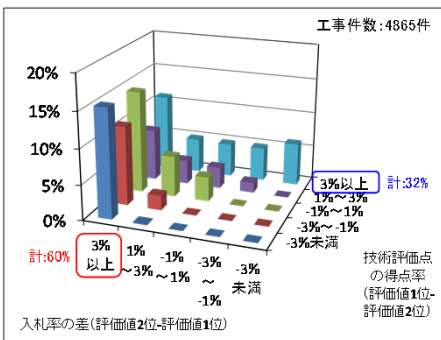
(14) 落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の「入札率」及び「技術評価点の得点率」の差

■ 落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の入札率及び技術評価点の得点率の差は、経年で縮小傾向にある。

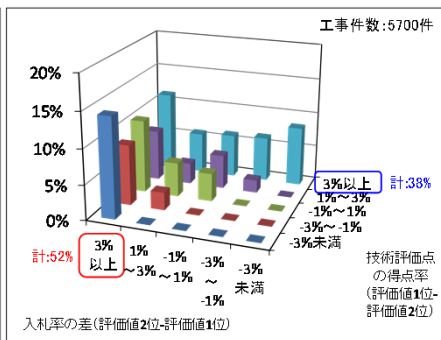
平成17年度



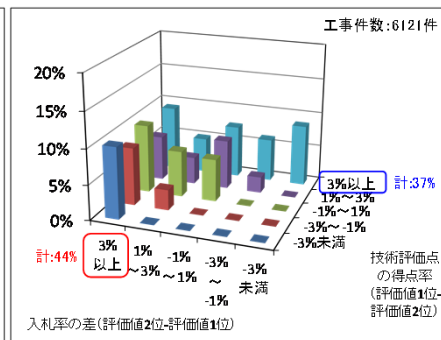
平成18年度



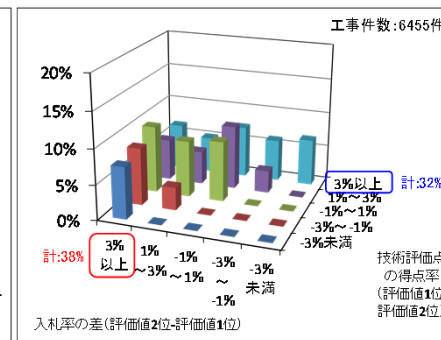
平成19年度



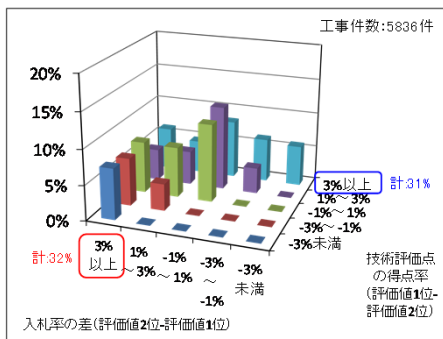
平成20年度



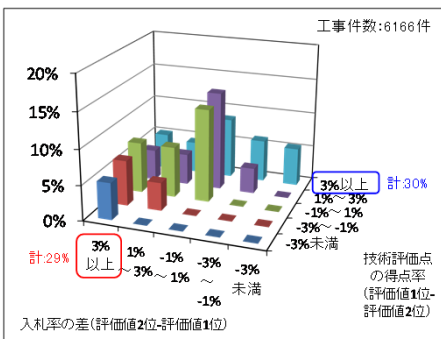
平成21年度



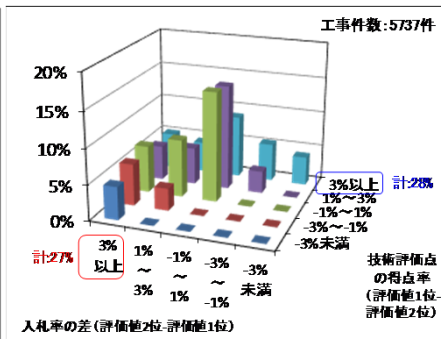
平成22年度



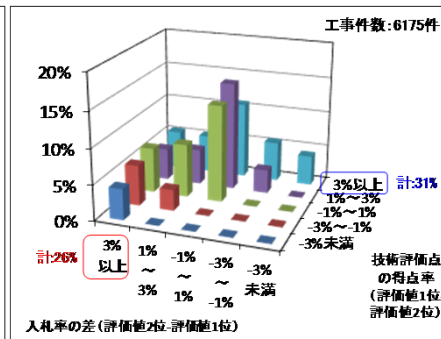
平成23年度



平成24年度



平成25年度



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 価格競争を除く。
 注3) 加算方式の工事を除く。

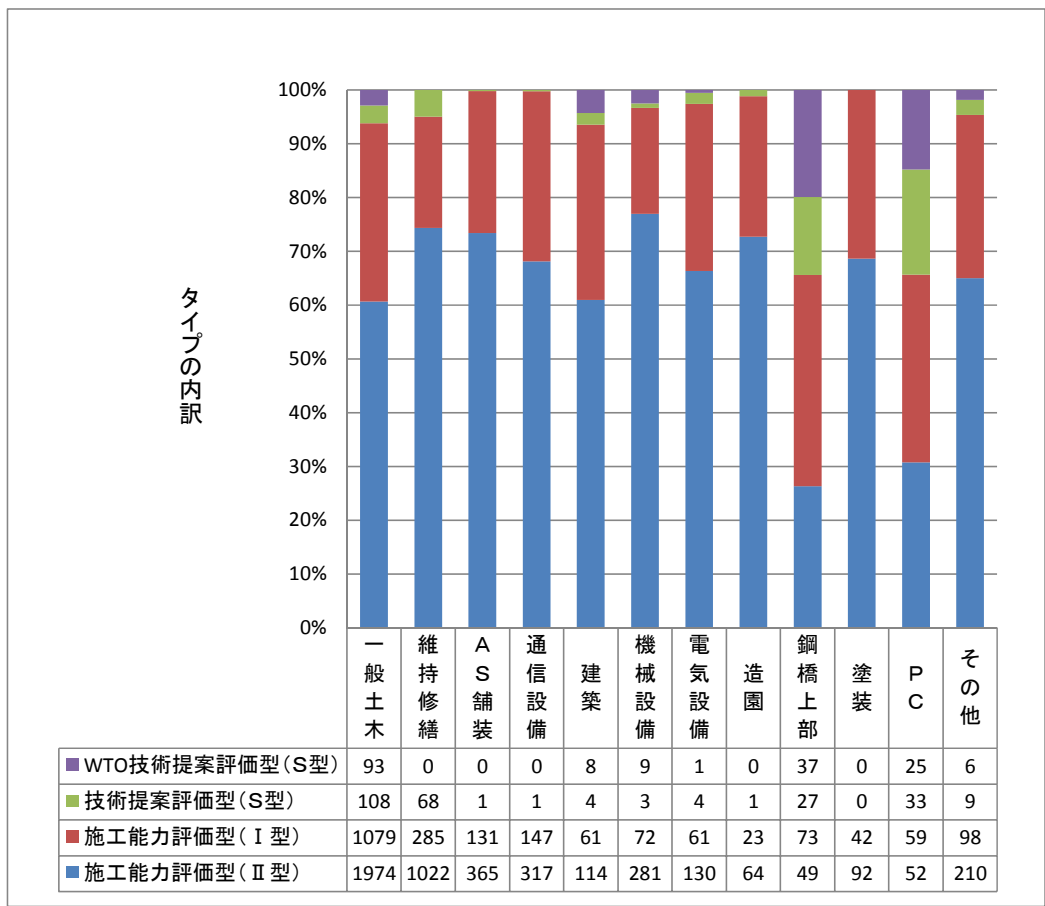
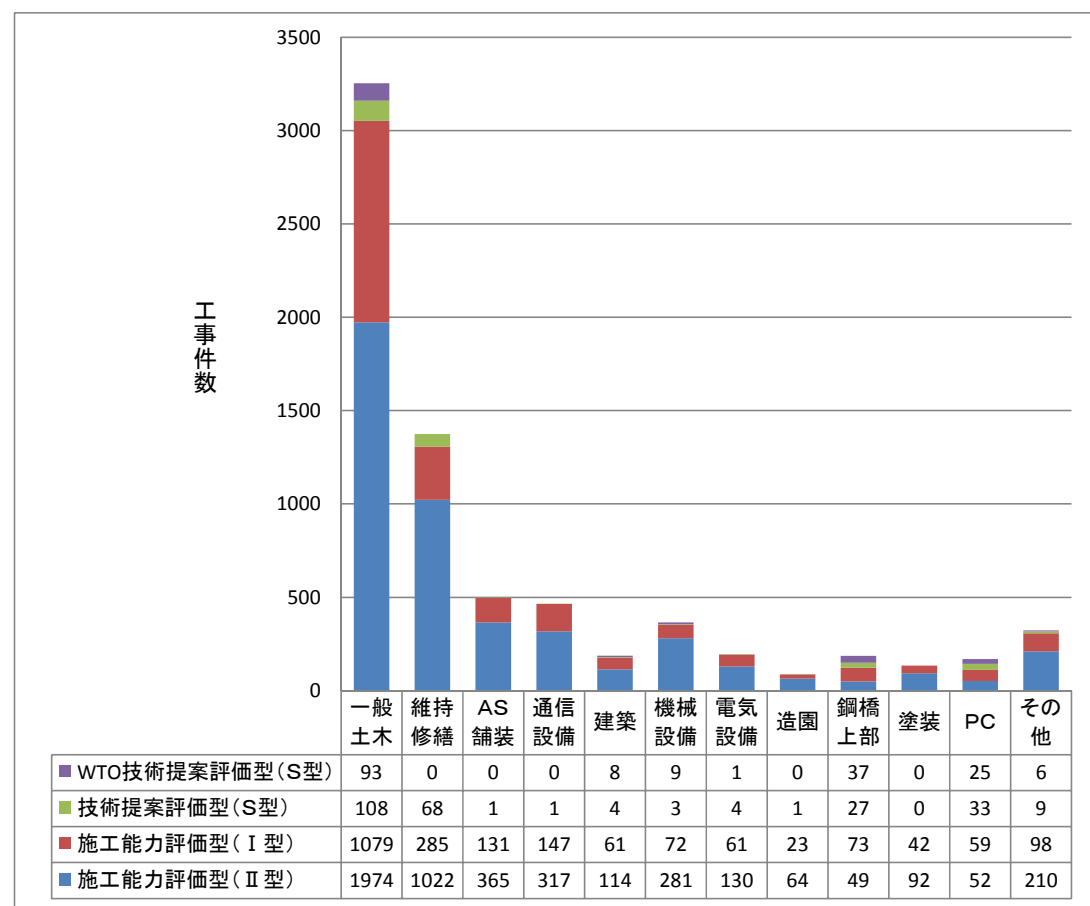
注4) 予定価格内1者の工事を除く。
 注5) 落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の差は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

2. 総合評価落札方式の実施状況(平成25年度)

(1) タイプの適用状況(新方式)

- 「鋼橋上部」と「PC」以外の工事種別は、施工能力評価型(I型・II型)の適用が9割を超えている。
- 「鋼橋上部」と「PC」における施工能力評価型の適用は、7割弱であり、残り3割強は技術提案評価型S型を適用している。

工事件数:7,239件



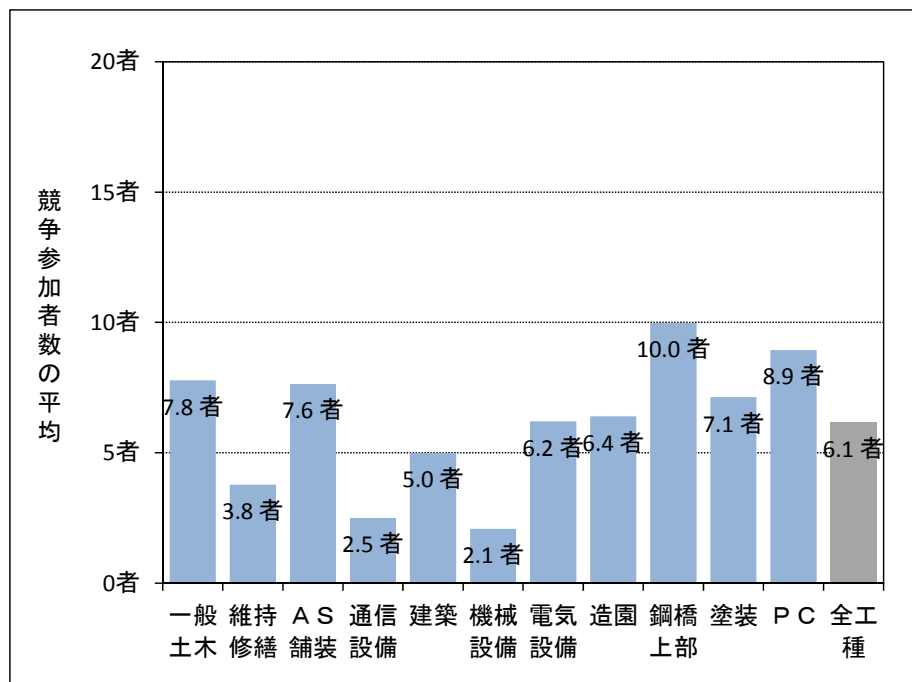
注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事の新方式を対象。
 注2) 上記の他、技術提案評価型A型が1件。

2. 総合評価落札方式の実施状況(平成25年度)

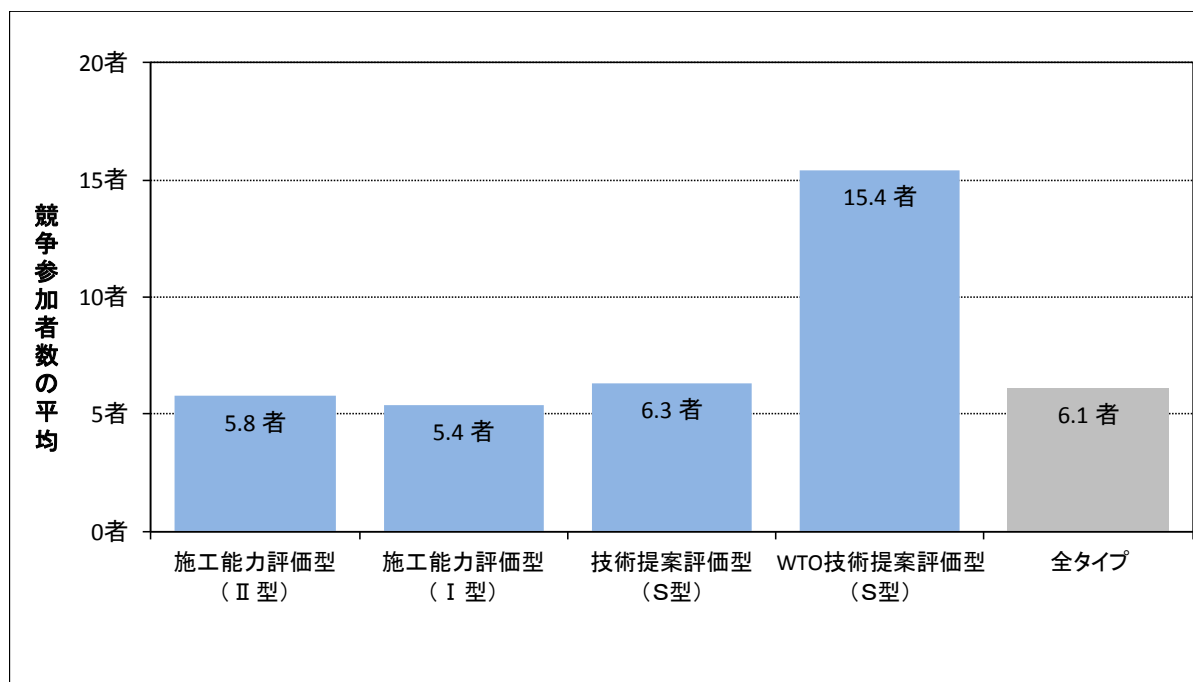
(2) 競争参加の状況

- 競争参加者数は、「一般土木」、「AS舗装」、「鋼橋上部」、「PC」が多く、「維持修繕」、「通信設備」、「機械設備」の工種における競争参加者数が少ない。
- 新方式のタイプ別では、WTO技術提案評価型S型における競争参加者数が、平均15.4者と他のタイプに比べて著しく多い。

① 工事種別別



② 総合評価のタイプ別(新方式)



注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。

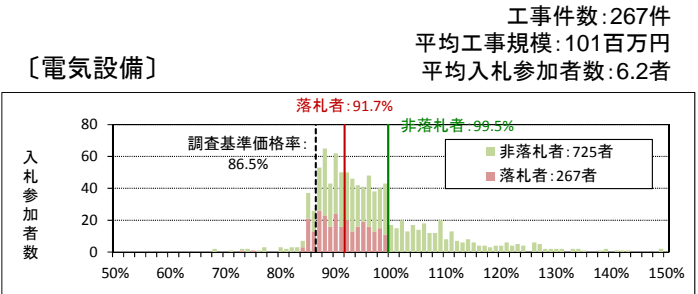
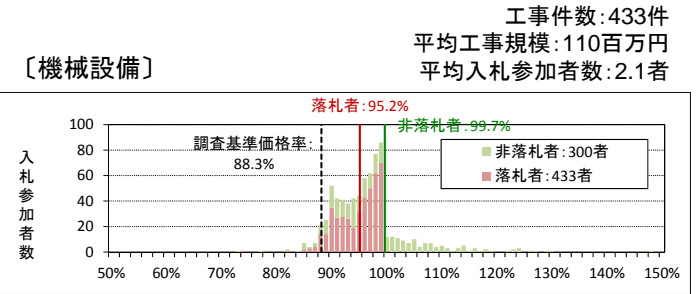
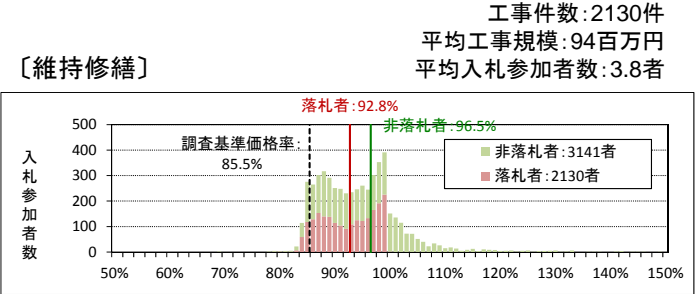
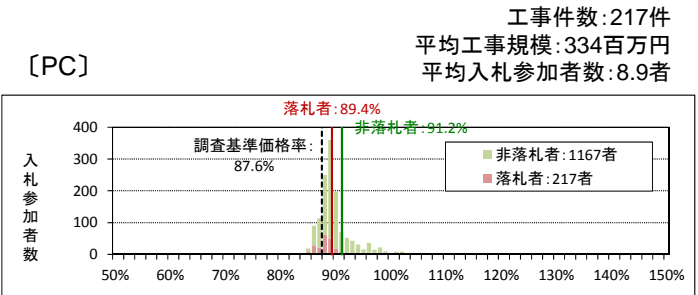
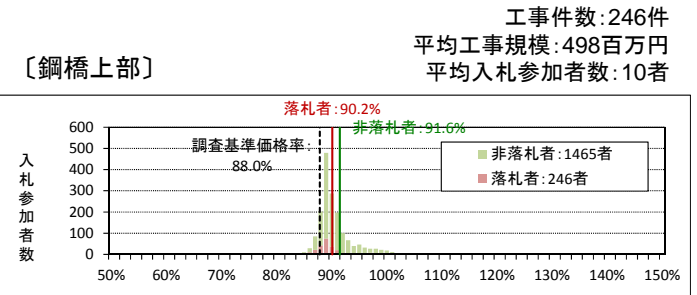
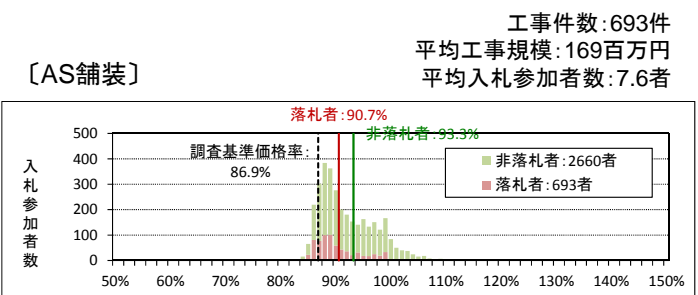
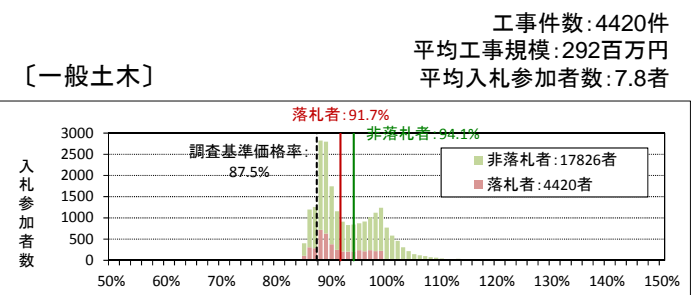
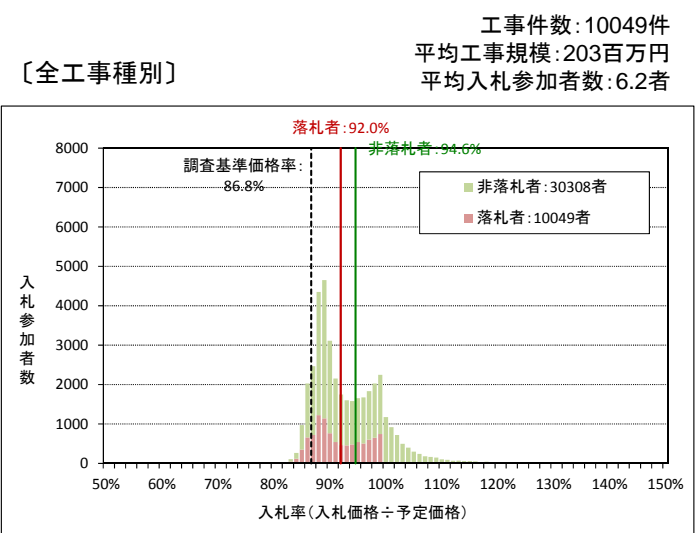
注2) 競争参加者数には、辞退・無効及び予定価格超過者を含む。

3. 入札の状況(平成25年度)

(1) 入札率の分布

① 工事種別別

- 「一般土木」、「鋼橋上部」、「PC」は、調査基準価格付近に集中した分布形状となっており、特に「鋼橋上部」と「PC」は、その傾向が顕著である。
- 平均工事規模が比較的小さな「維持修繕」と「機械設備」では、調査基準価格付近への分布よりも、予定価格付近にも分布が集中する傾向がある。



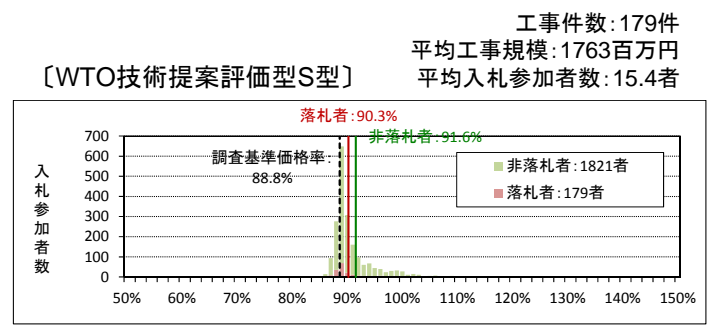
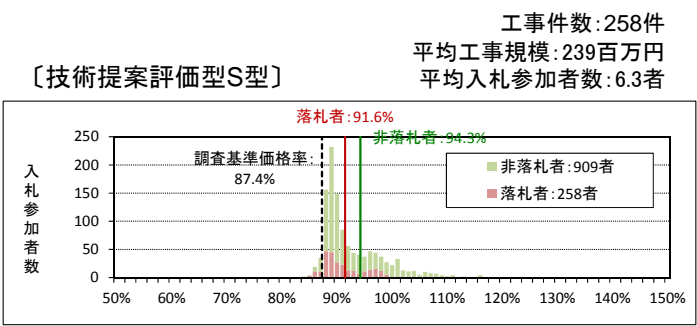
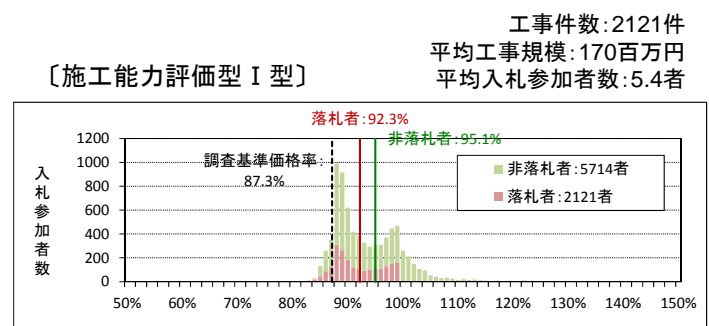
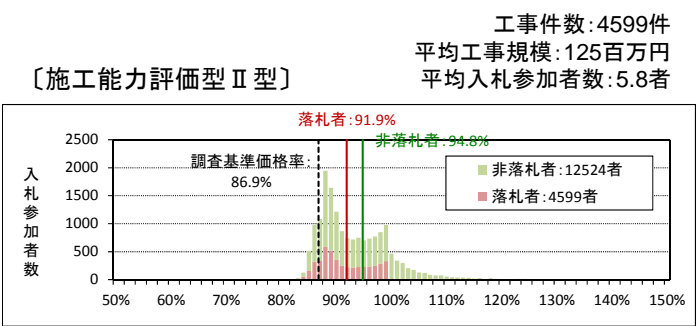
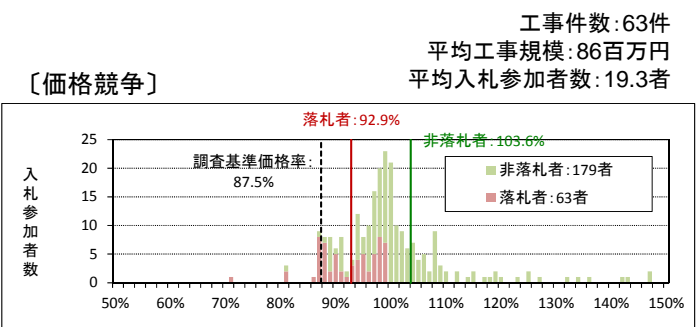
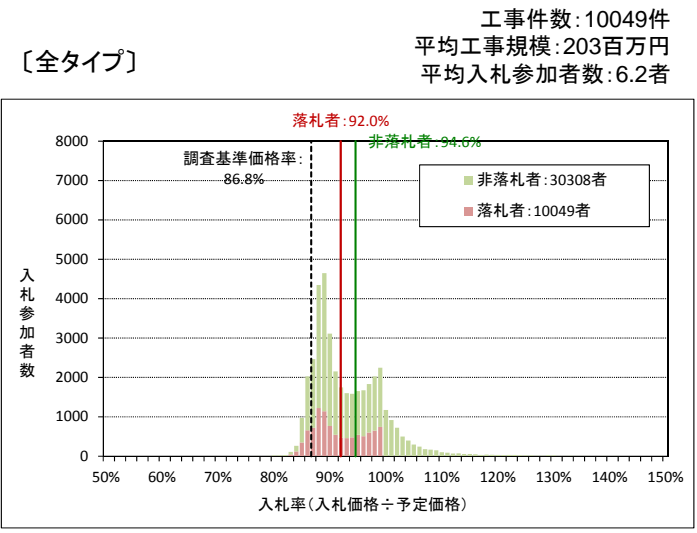
注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2) 調査基準価格の設定されていない工事を除く。

注3) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。

3. 入札の状況(平成25年度)

②総合評価のタイプ別(新方式)

■ 「施工能力評価型(I型・II型)」では、調査基準価格付近と予定価格付近への2つのピークをもつ分布形状となっているが、「技術提案評価型」では調査基準価格付近に分布が集中する傾向が見られる。



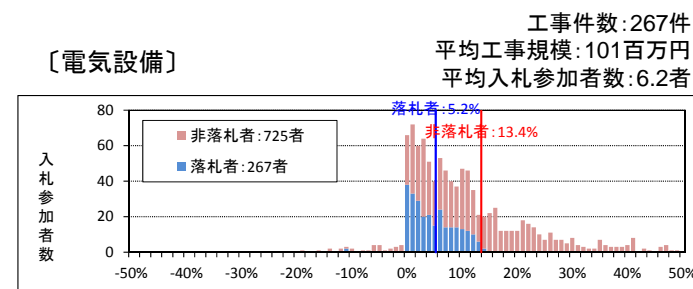
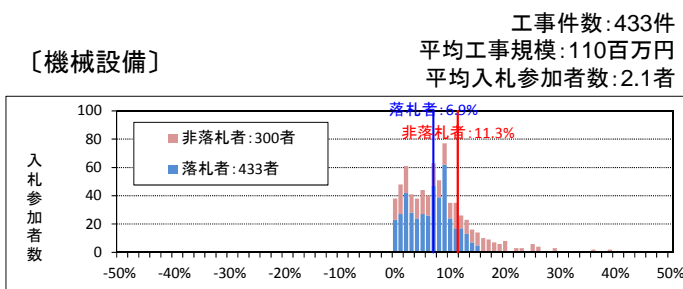
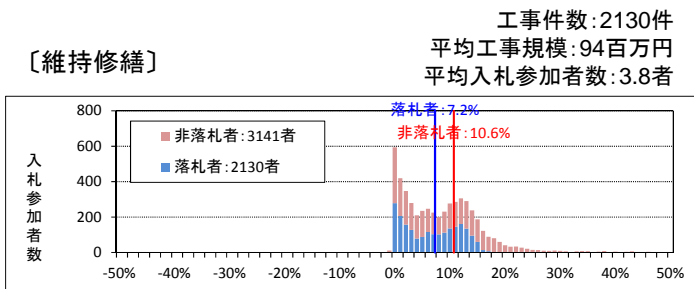
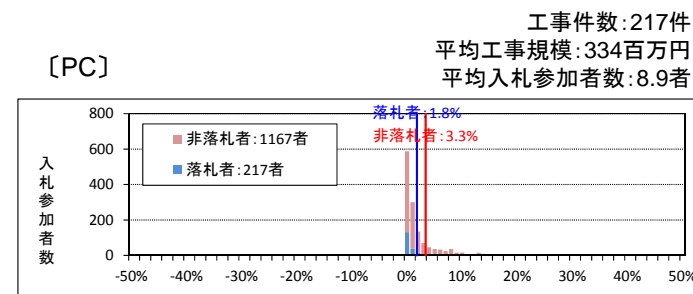
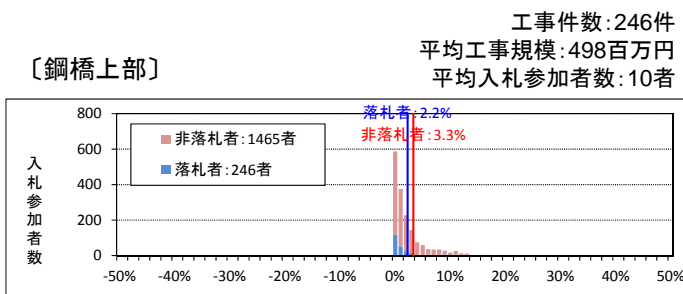
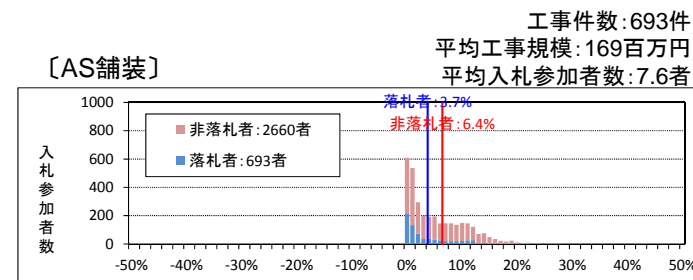
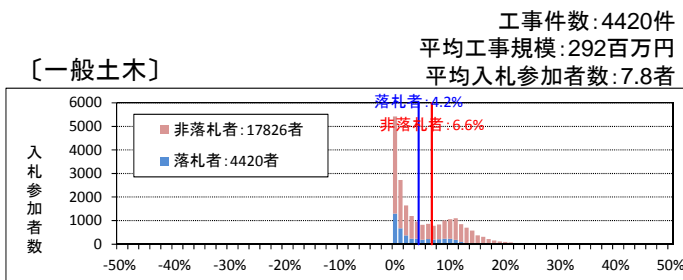
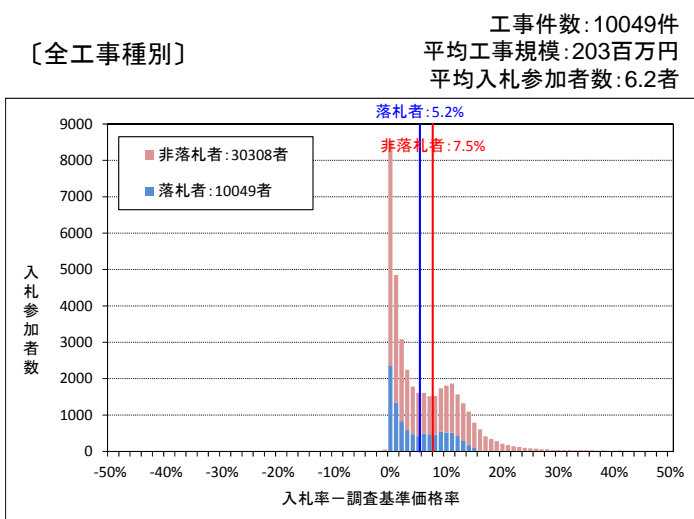
注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2) 調査基準価格の設定されていない工事を除く。 注3) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。

3. 入札の状況(平成25年度)

(2) 「入札率-調査基準価格率」の分布

① 工事種別別

- 入札率と調査基準価格率の差が0%に集中する傾向が見られる。この結果は、調査基準価格付近での入札が多いことを示している。
- 工事種別では、「一般土木」、「AS舗装」、「鋼橋上部」、「PC」において、入札率と調査基準価格率の差が0%に集中する傾向が強く、「鋼橋上部」、「PC」はその傾向が顕著である。



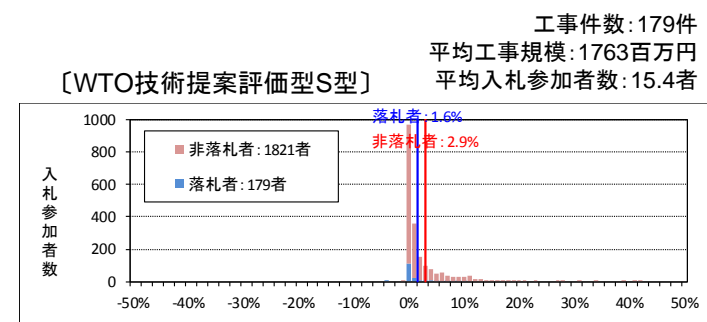
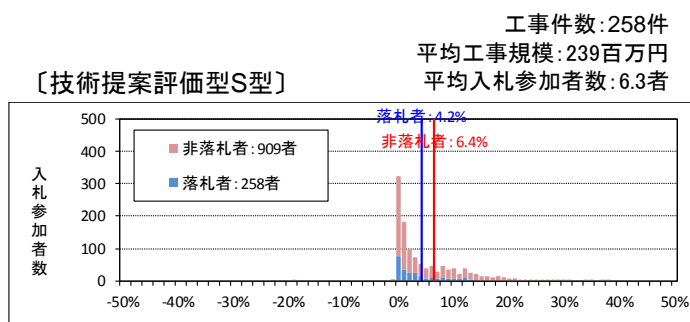
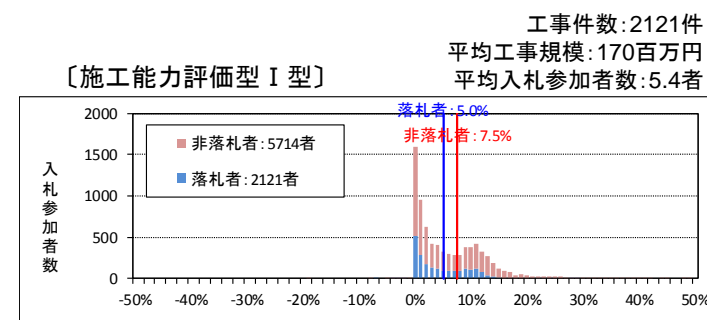
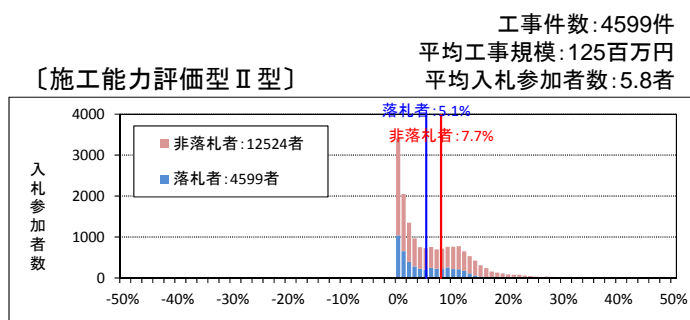
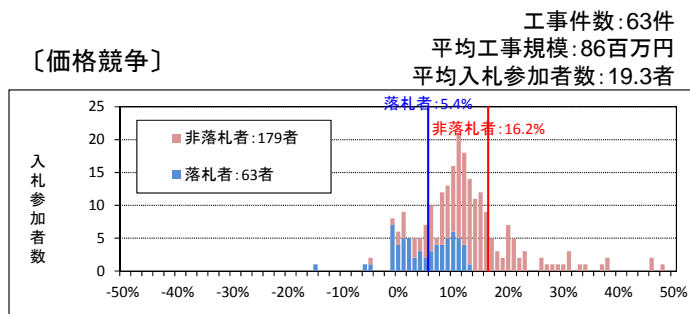
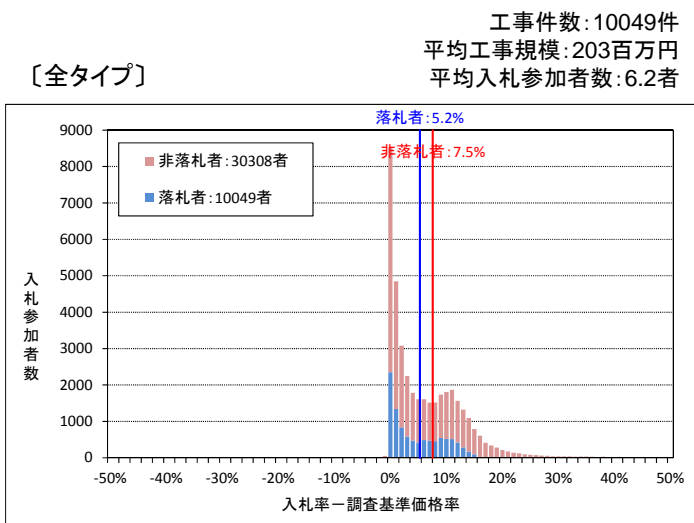
注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2) 調査基準価格の設定されていない工事を除く。

注3) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。

3. 入札の状況(平成25年度)

②総合評価のタイプ別(新方式)

- 総合評価のタイプ別に見ると、技術提案評価型を適用した工事ほど入札率と調査基準価格率の差の分布が0%に集中する傾向が見られる。
- 価格競争は、施工体制確認型が適用されないため0%未満の落札も発生している。



注1)8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2)調査基準価格の設定されていない工事を除く。

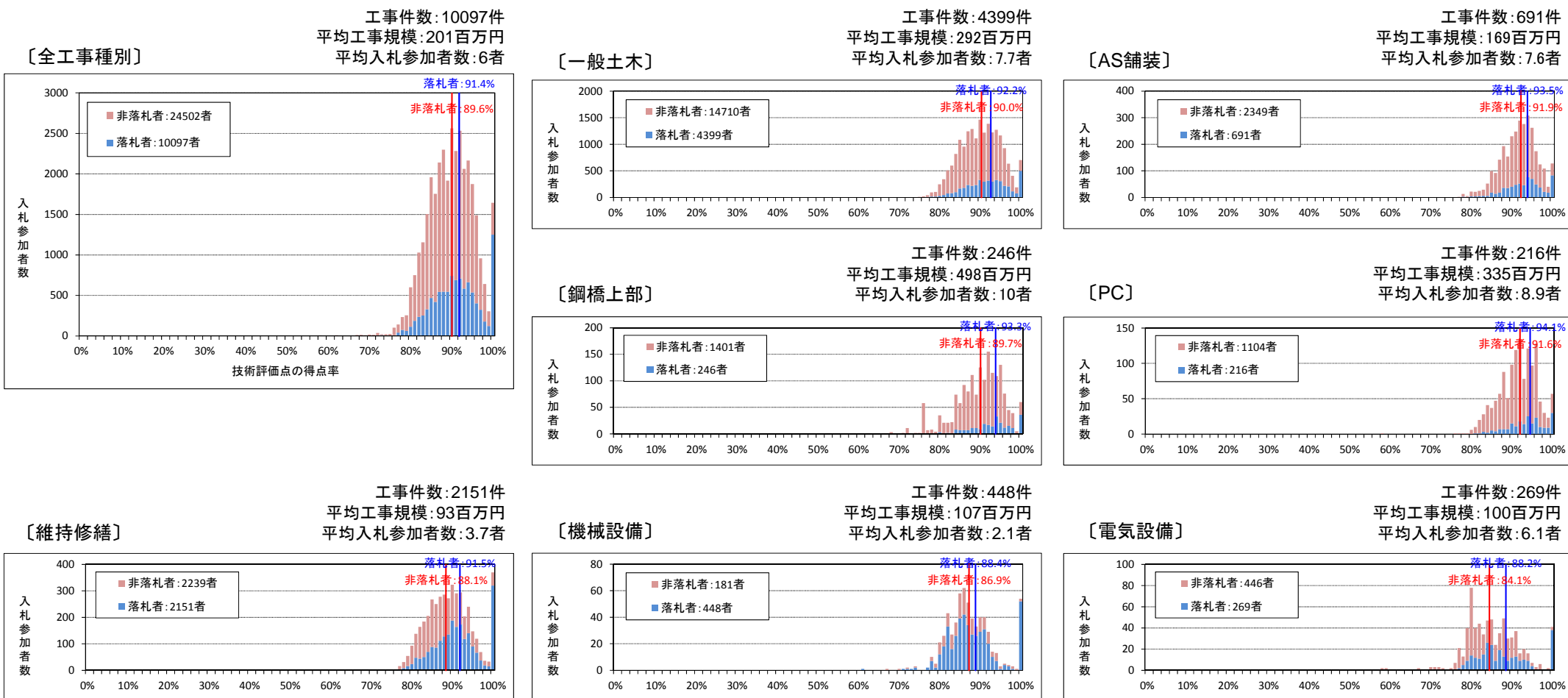
注3)入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。

4. 技術評価の状況(平成25年度)

(1) 技術評価点の状況(得点率の分布)

① 工事種別別

- 技術評価点の得点率の平均を工種別に比較すると、「一般土木」、「AS舗装」、「鋼橋上部」、「PC」の得点率が比較的高い。
- 一方、「機械設備」、「電気設備」は、得点率が低い範囲にも落札者が分布している。



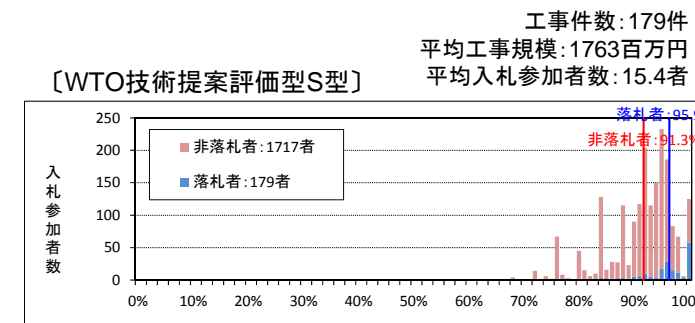
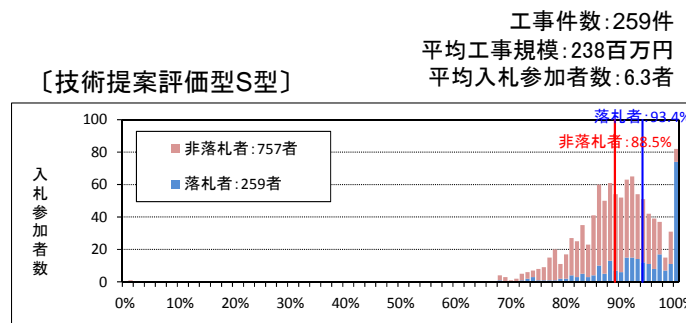
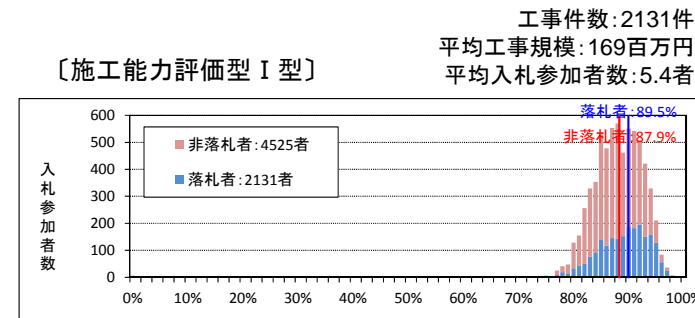
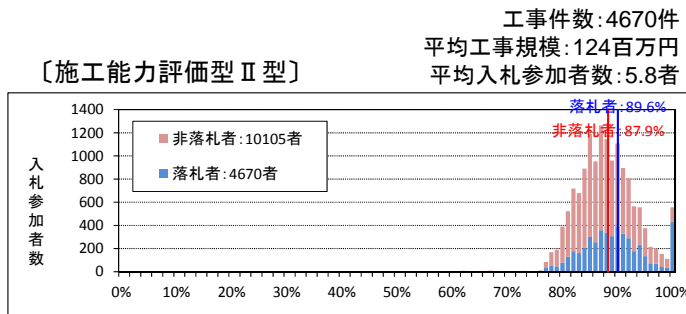
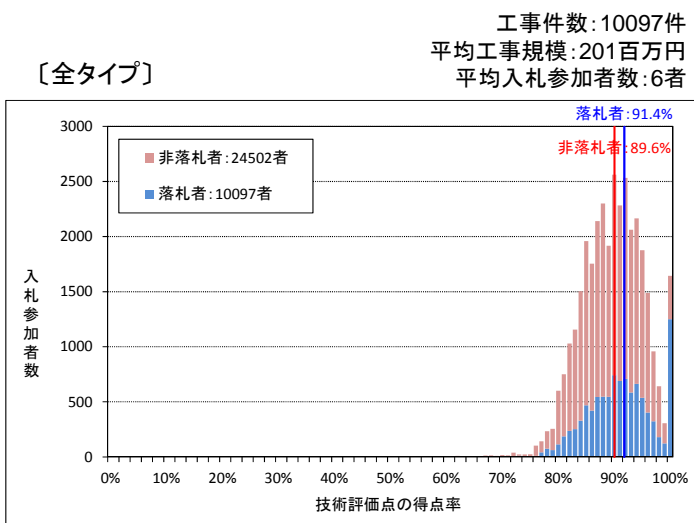
注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
 注2) 価格競争を除く。

注3) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。
 (ここでは更に予定価格超過者を除く)

4. 技術評価の状況(平成25年度)

②総合評価のタイプ別(新方式)

■ 総合評価のタイプ別では、落札者の技術評価点の得点率に大きな違いは見受けられないが、「技術提案評価型」では落札者と非落札者の平均得点率に差異が見られる。



注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2) 価格競争を除く。

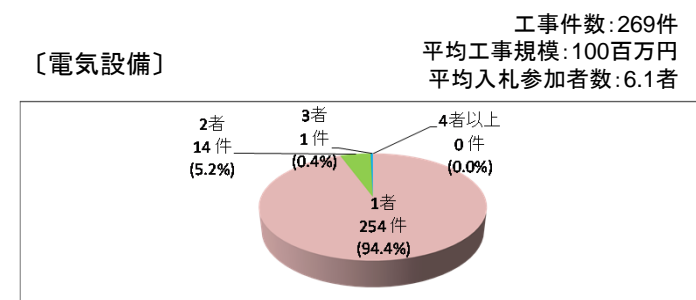
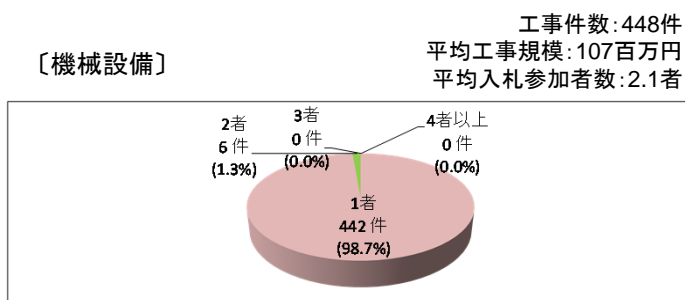
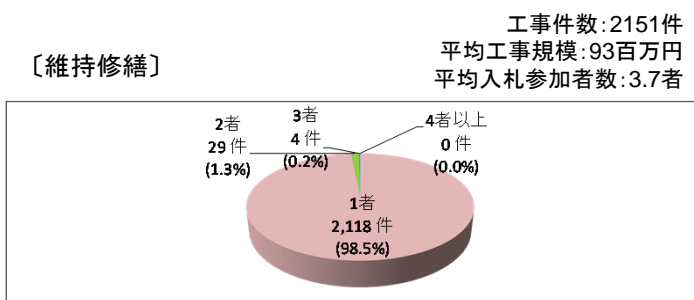
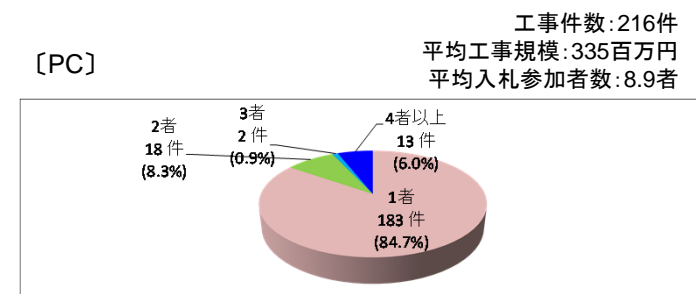
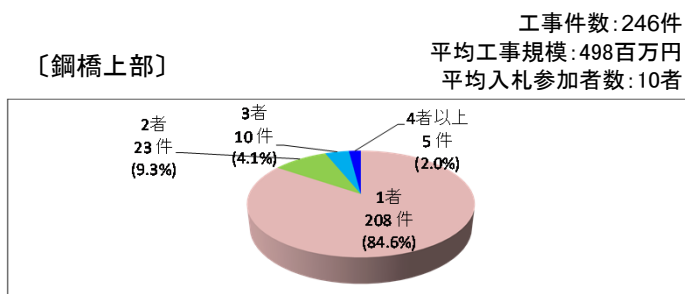
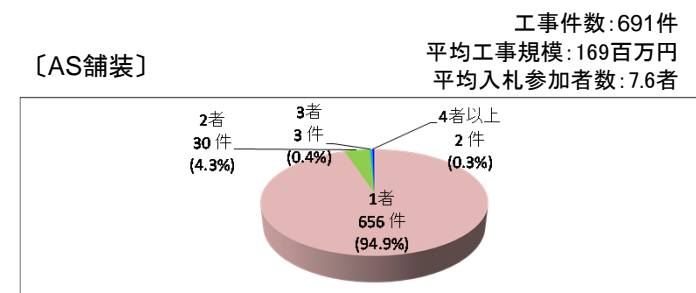
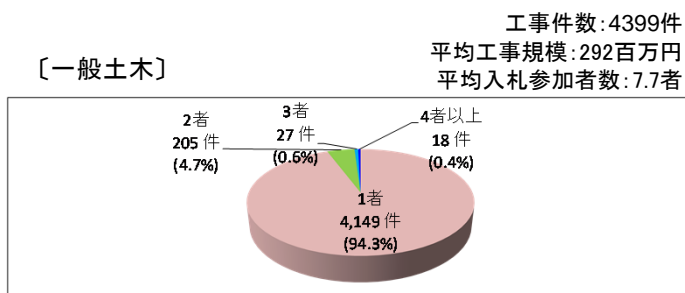
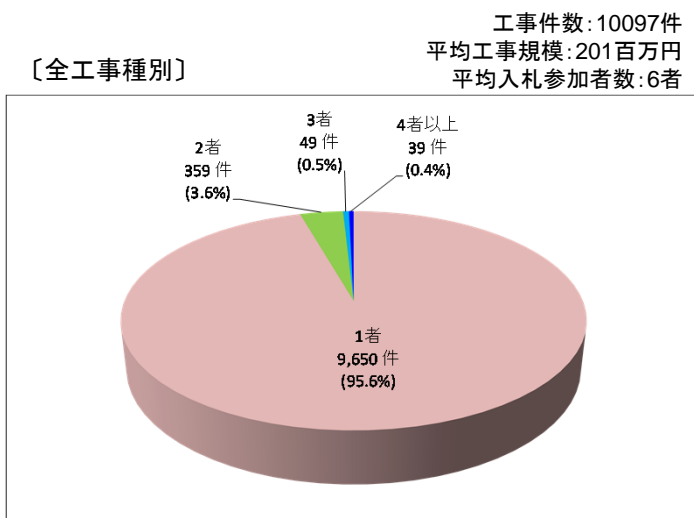
注3) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。
(ここでは更に予定価格超過者を除く)

4. 技術評価の状況(平成25年度)

(2) 技術評価点の状況(1位同点者数)

① 工事種別別

■ 工種別では、「鋼橋上部」、「PC」において、技術評価点1位同点者が2者以上の割合が多くなっている。特に「PC」は、他工種に比べて1位同点者が3者以上の割合も多い。

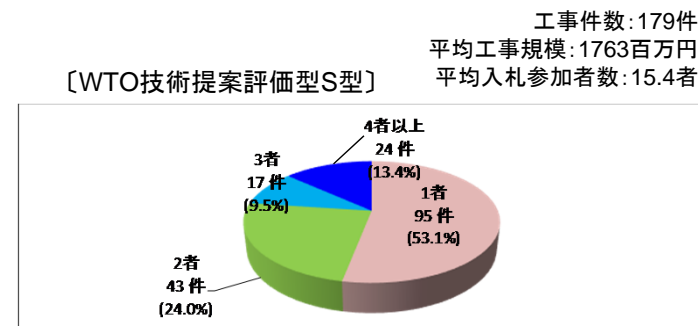
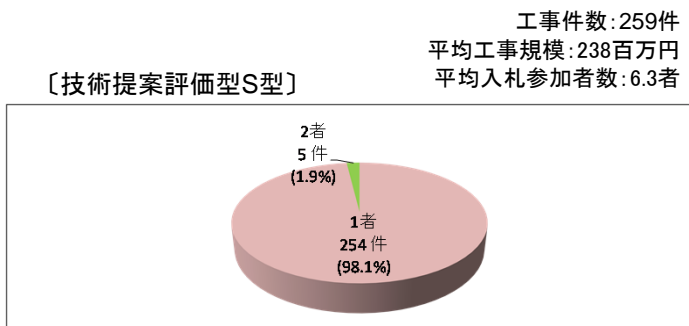
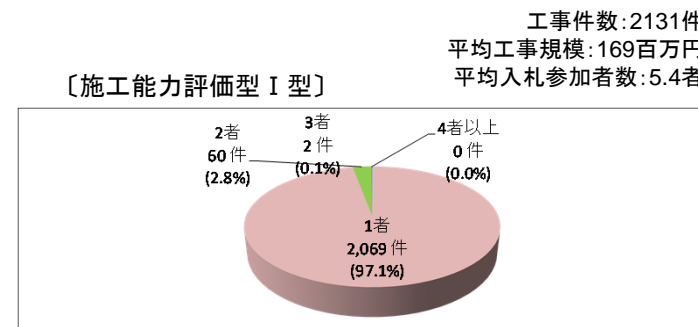
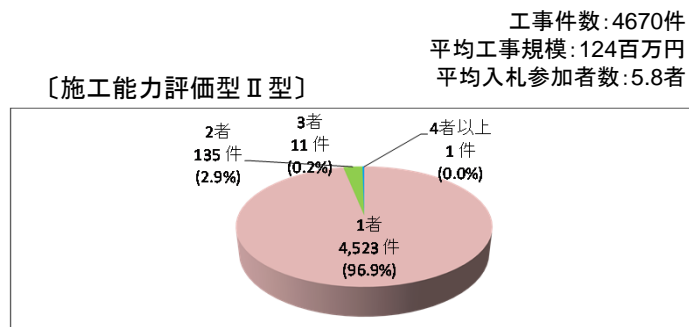
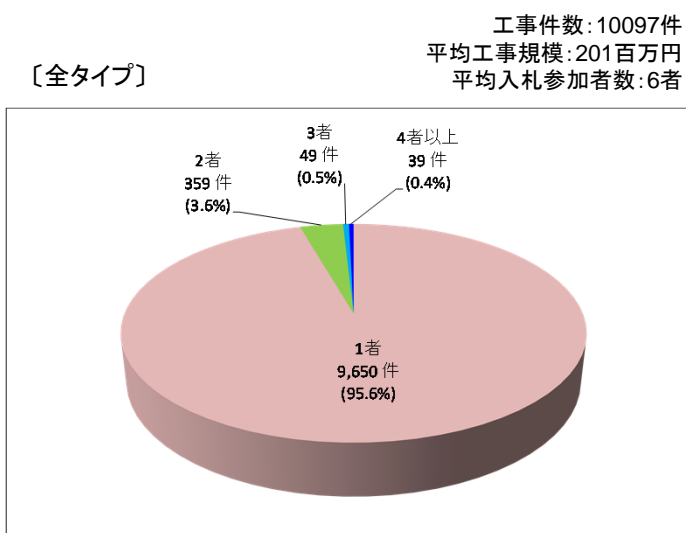


注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2) 価格競争を除く。
注3) 技術評価点1位者数は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

4. 技術評価の状況(平成25年度)

②総合評価のタイプ別(新方式)

■ 総合評価落札方式のタイプ別には、「WTO技術提案評価型S型」を適用した工事において、技術評価点1位同点者が著しく多く発生している。



注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2) 価格競争を除く。
注3) 技術評価点1位者数は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

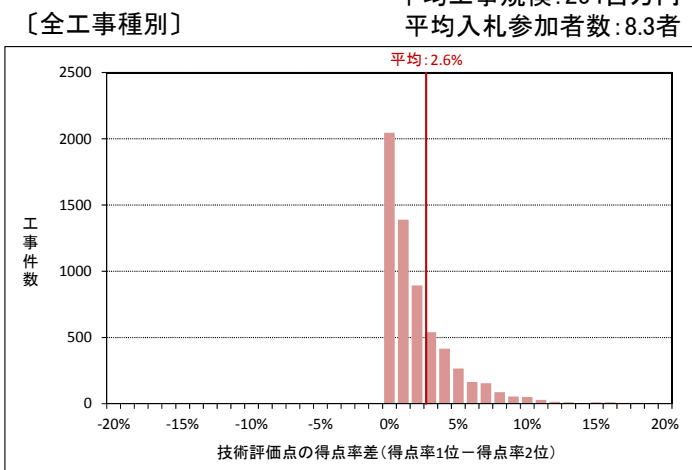
4. 技術評価の状況(平成25年度)

(3) 技術評価点の状況(1位と2位の得点率の差の分布)

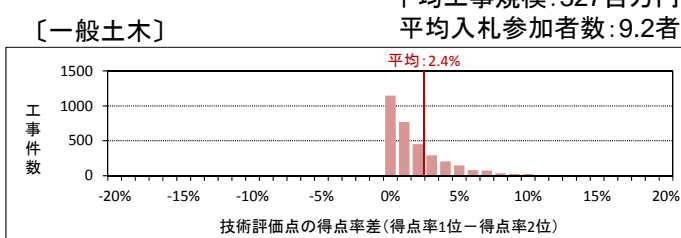
① 工事種別別

■ 技術評価点1位と2位の得点率の差を工種別に比較すると、「維持修繕」、「機械設備」、「電気設備」が他工種に比べて差が大きい。

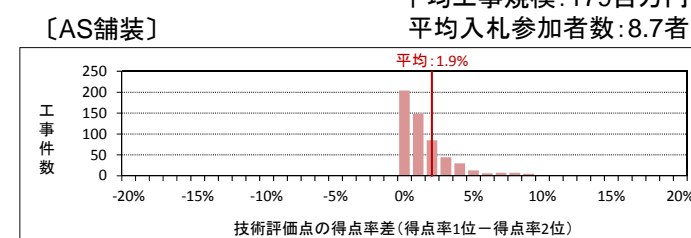
工事件数:6175件
平均工事規模:254百万円
平均入札参加者数:8.3者



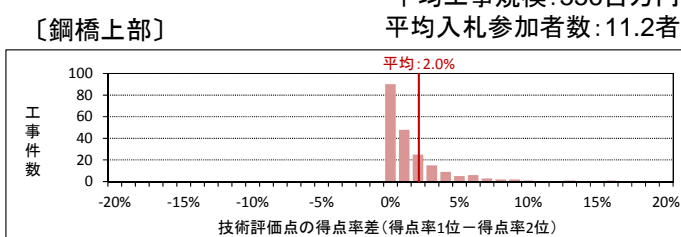
工事件数:3281件
平均工事規模:327百万円
平均入札参加者数:9.2者



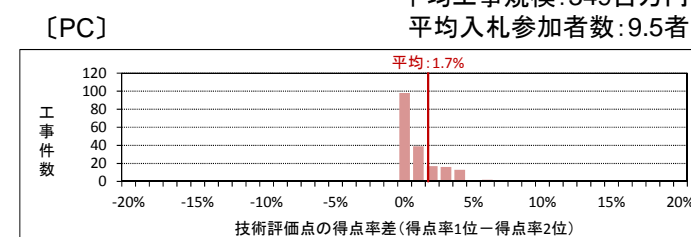
工事件数:550件
平均工事規模:179百万円
平均入札参加者数:8.7者



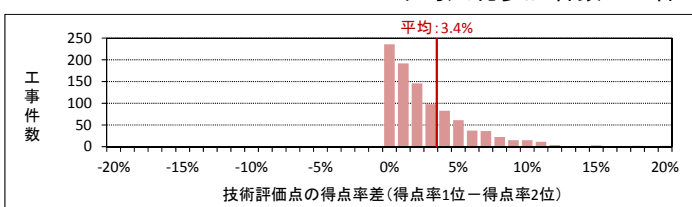
工事件数:208件
平均工事規模:556百万円
平均入札参加者数:11.2者



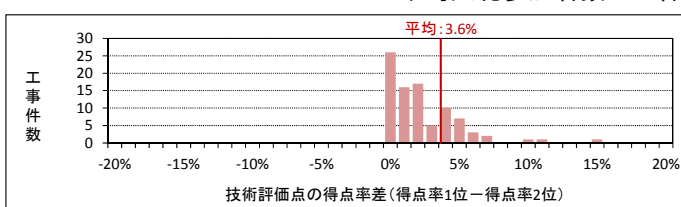
工事件数:191件
平均工事規模:349百万円
平均入札参加者数:9.5者



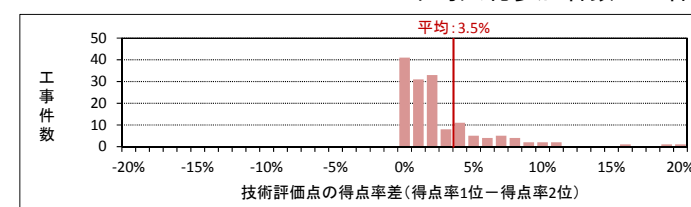
工事件数:969件
平均工事規模:96百万円
平均入札参加者数:5.7者



工事件数:92件
平均工事規模:194百万円
平均入札参加者数:4.3者



工事件数:154件
平均工事規模:107百万円
平均入札参加者数:8.3者



注1)8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。

注2)価格競争を除く。

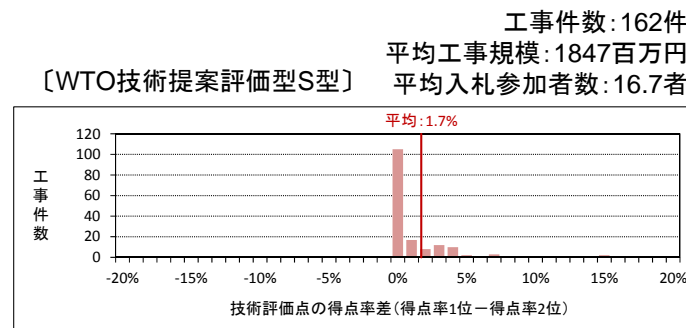
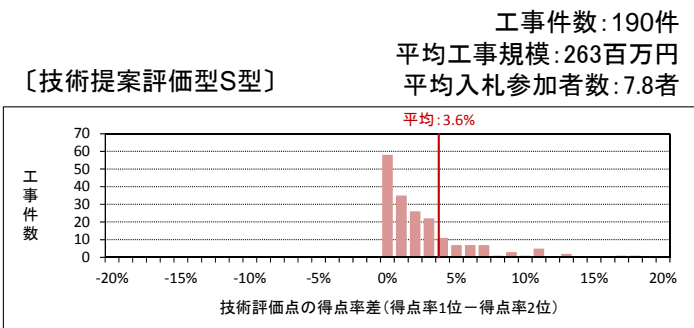
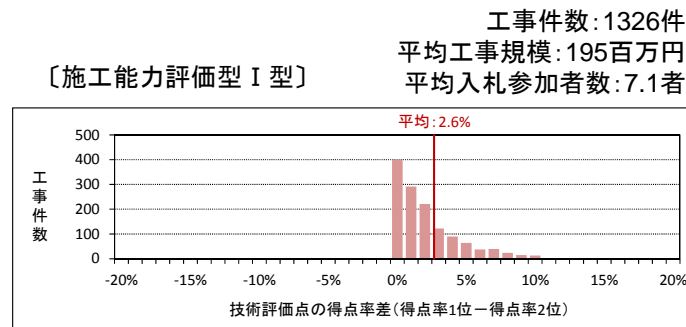
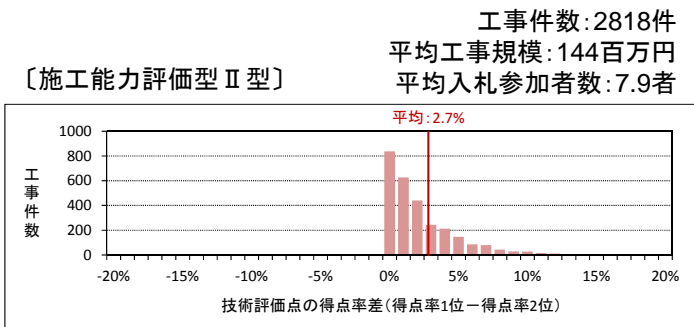
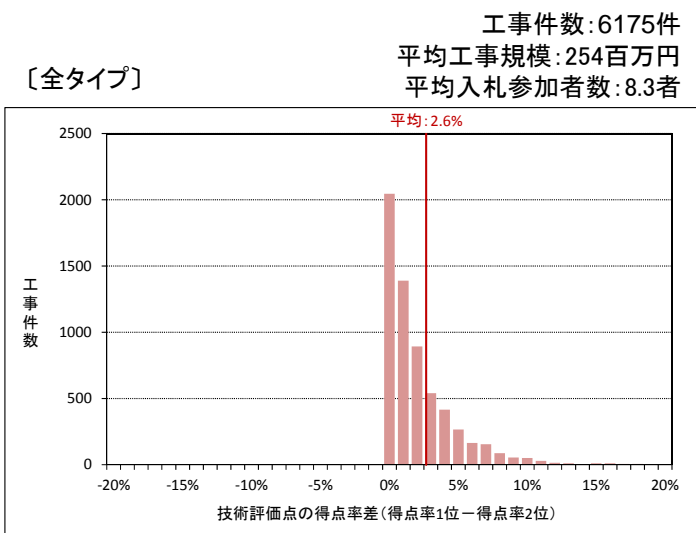
注3)予定価格内1者の案件を除く。

注4)得点率の順位は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

4. 技術評価の状況(平成25年度)

②総合評価のタイプ別(新方式)

■ 技術評価点1位と2位で技術評価点の得点率の差をタイプ別に比較すると、「WTO技術提案評価型S型」が他のタイプに比べて差が小さい。



注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成24年度契約工事を対象。

注2) 価格競争を除く。

注3) 予定価格内1者の案件を除く。

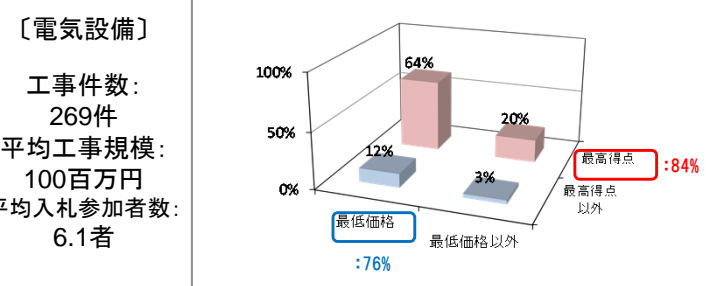
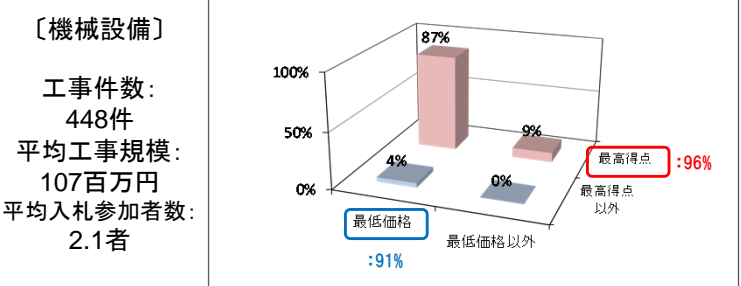
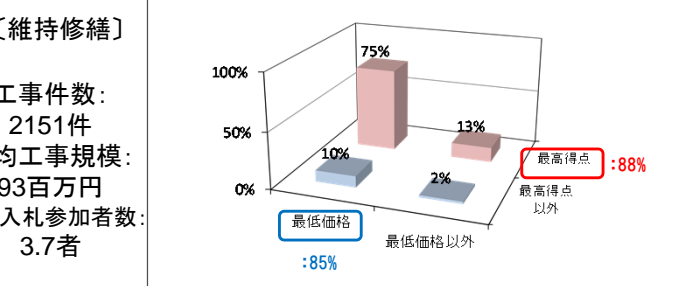
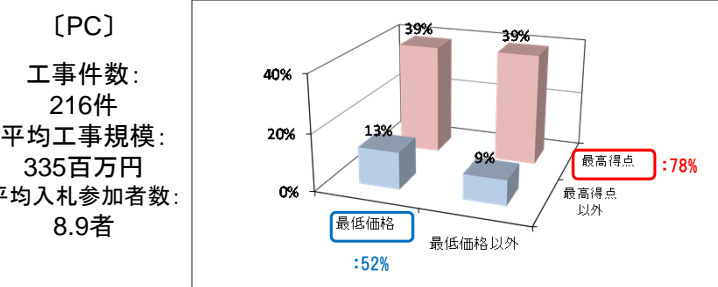
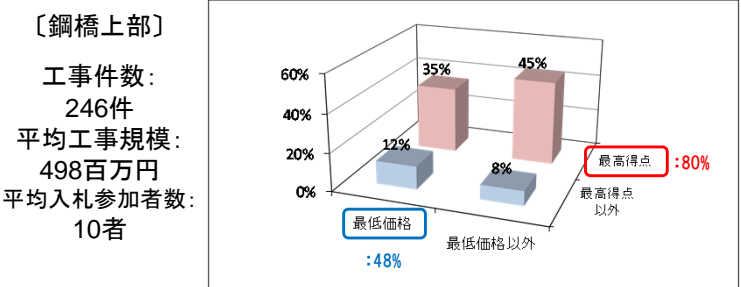
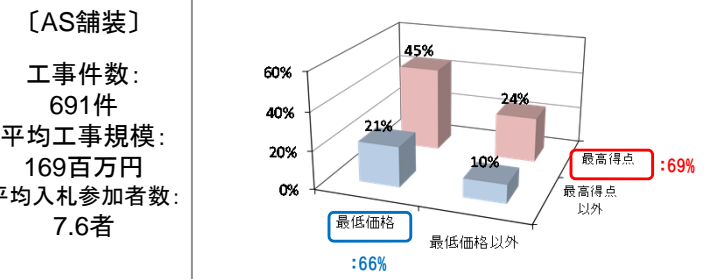
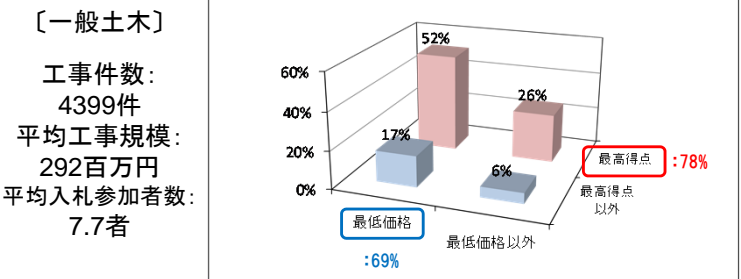
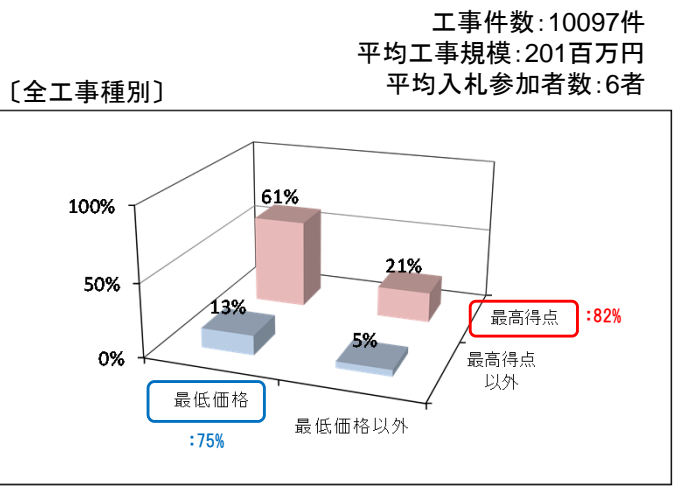
注4) 得点率の順位は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

5. 総合評価の結果と落札者の特徴(平成25年度)

(1) 落札者の内訳

① 工事種別別

- 落札者の内訳を全工事種別で見ると、最高得点かつ最低価格の企業が落札する割合が最も高い。
- 一方、「鋼橋上部」と「PC」では、最高得点かつ最低価格以外の企業が落札する割合が高くなっている。



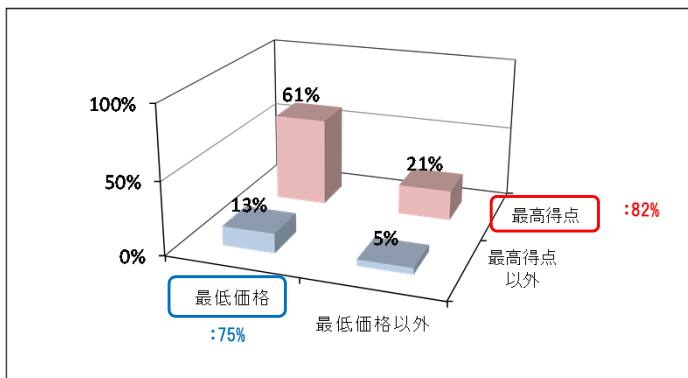
注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2) 価格競争を除く。 注3) 落札者の内訳は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

5. 総合評価の結果と落札者の特徴(平成25年度)

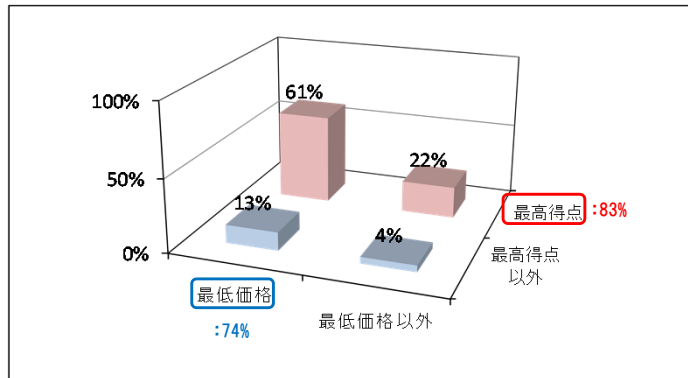
②総合評価のタイプ別(新方式)

- タイプ別に落札者の内訳を比較すると、「施工能力評価型Ⅱ型」、「施工能力評価型Ⅰ型」、「技術提案評価型S型」において最高得点かつ最低価格の企業が落札する割合が最も高い。
- 一方、「WTO技術提案評価型S型」においては、最高得点かつ最低価格以外の企業が落札する割合が、下位のタイプと比べて高くなる傾向にある。

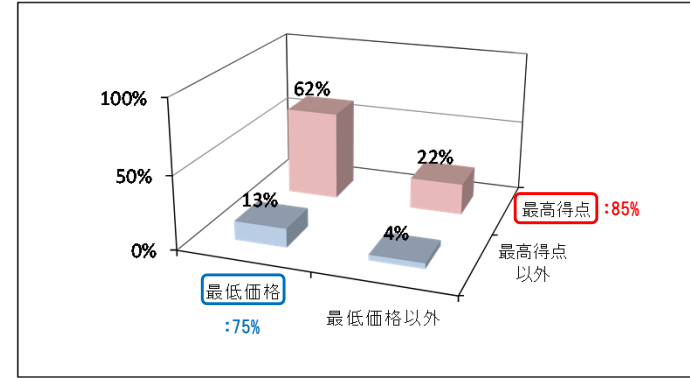
工事件数:10097件、平均工事規模:201百万円
[全タイプ] 平均入札参加者数:6者



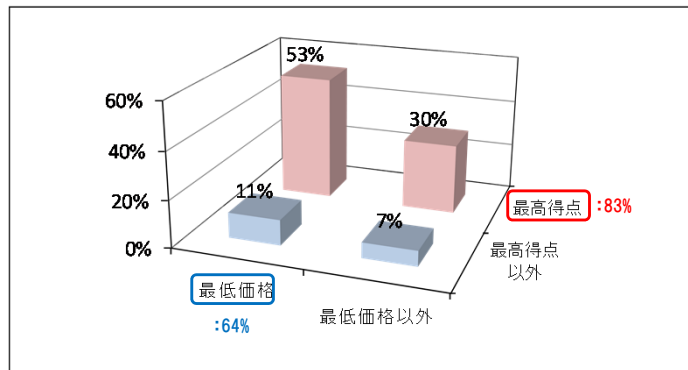
工事件数:4670件、平均工事規模:124百万円
[施工能力評価型Ⅱ型] 平均入札参加者数:5.8者



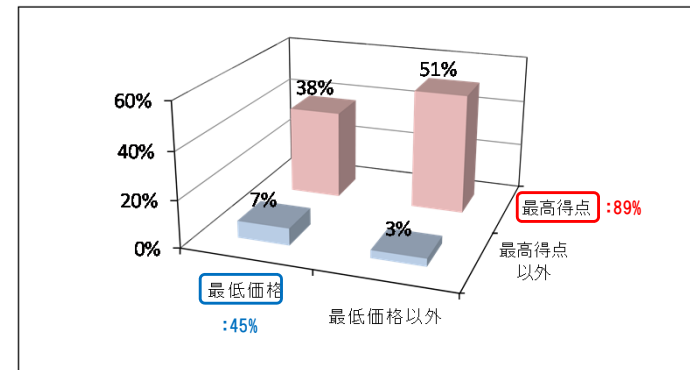
工事件数:2131件、平均工事規模:169百万円
[施工能力評価型Ⅰ型] 平均入札参加者数:5.4者



工事件数:259件、平均工事規模:238百万円
[技術提案評価型S型] 平均入札参加者数:6.3者



工事件数:179件、平均工事規模:1763百万円
[WTO技術提案評価型S型] 平均入札参加者数:15.4者



注1)8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。

注2)価格競争を除く。

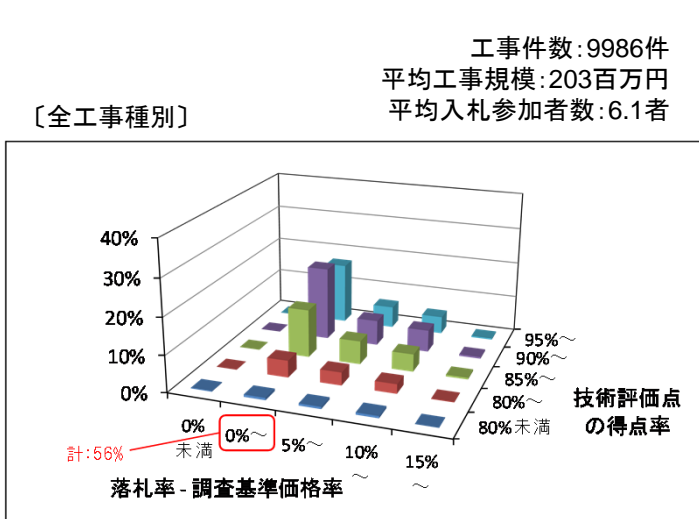
注3)落札者の内訳は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

5. 総合評価の結果と落札者の特徴(平成25年度)

(2) 落札者の「落札率-調査基準価格率」と「技術評価点の得点率」

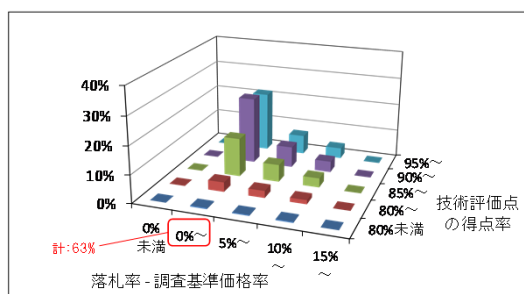
① 工事種別別

- 技術評価点の得点率は90%以上、「落札率-調査基準価格率」は0%以上(5%未満)に集中している。
- 工種別に落札者の「落札率-調査基準価格率」と「技術評価点の得点率」を比較すると、他の工事種別と比較し、「鋼橋上部」と「PC」の「落札率-調査基準価格率」が0%以上(5%未満)に分布が一層集中している。



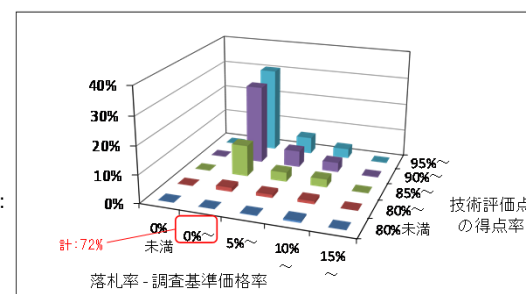
【一般土木】

工事件数: 4397件
平均工事規模: 292百万円
平均入札参加者数: 7.7者



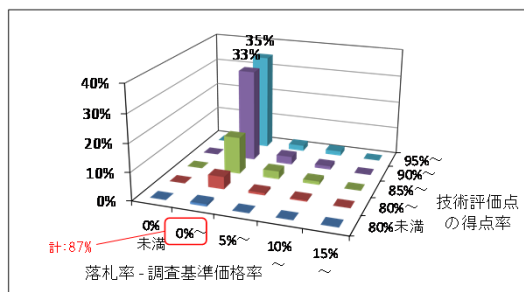
【AS舗装】

工事件数: 691件
平均工事規模: 169百万円
平均入札参加者数: 7.6者



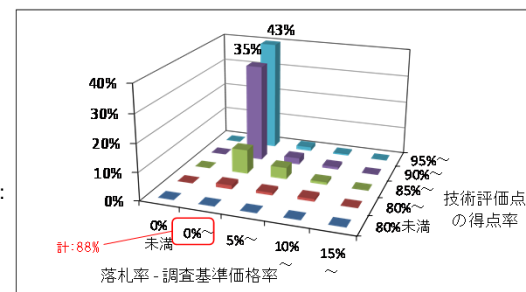
【鋼橋上部】

工事件数: 246件
平均工事規模: 498百万円
平均入札参加者数: 10者



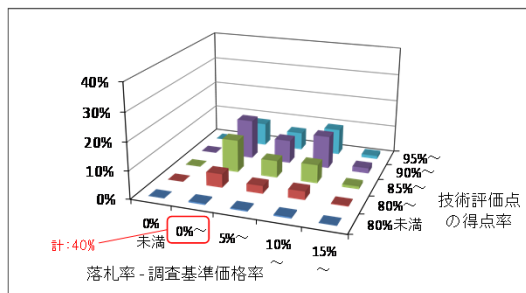
【PC】

工事件数: 216件
平均工事規模: 335百万円
平均入札参加者数: 8.9者



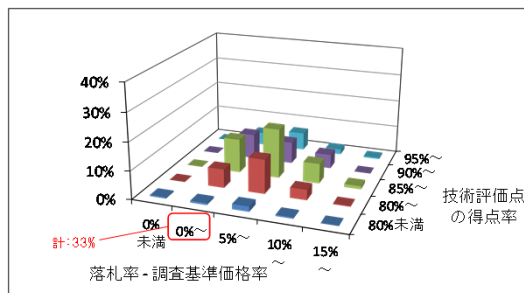
【維持修繕】

工事件数: 2119件
平均工事規模: 94百万円
平均入札参加者数: 3.7者



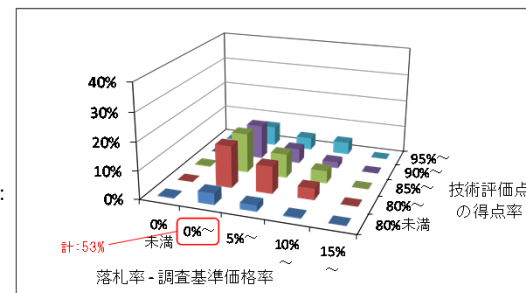
【機械設備】

工事件数: 433件
平均工事規模: 110百万円
平均入札参加者数: 2.1者



【電気設備】

工事件数: 266件
平均工事規模: 101百万円
平均入札参加者数: 6.2者



注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2) 価格競争を除く。

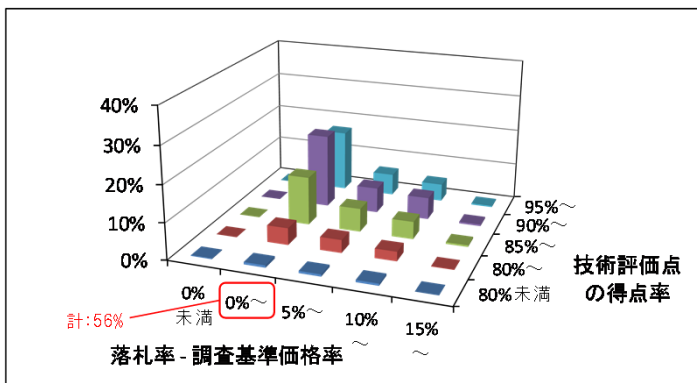
注3) 調査基準価格が設定されていない工事は除く。

5. 総合評価の結果と落札者の特徴(平成25年度)

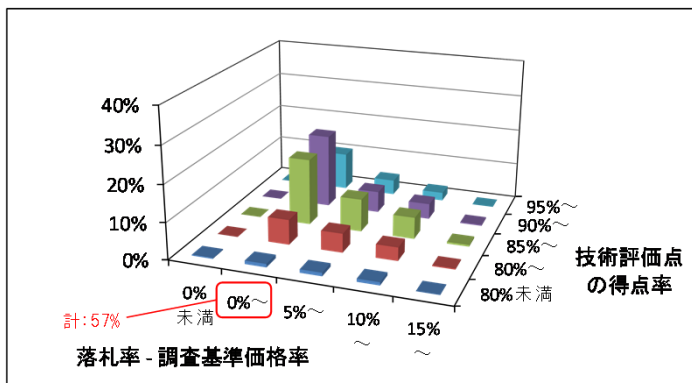
②総合評価のタイプ別(新方式)

- 施工能力評価型(I型・II型)では、“落札率-調査基準価格率”が5%以上(調査基準価格から離れた価格での入札)で落札している者もいるが、技術提案評価型S型では落札者が0%以上(5%未満)に集中している傾向が見られる。
- 更に、WTO技術提案評価型S型は、技術評価点の得点率が高得点帯に集中している。

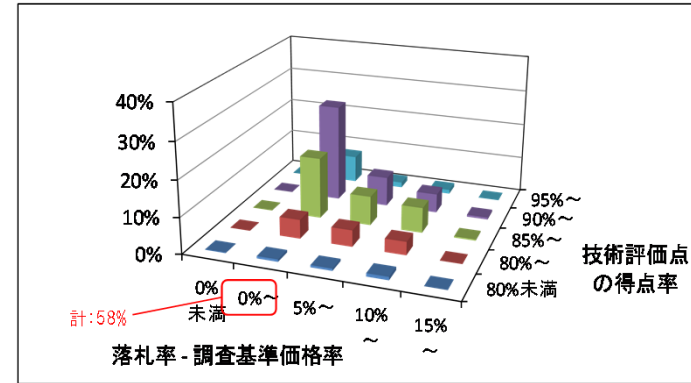
【全タイプ】
工事件数: 9986件
平均工事規模: 203百万円
平均入札参加者数: 6.1者



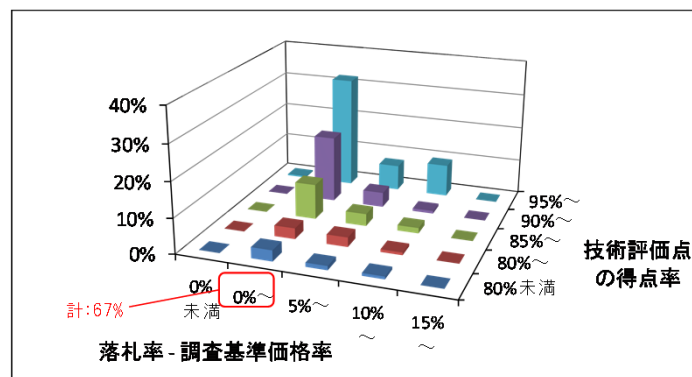
【施工能力評価型II型】
工事件数: 4599件
平均工事規模: 125百万円
平均入札参加者数: 5.8者



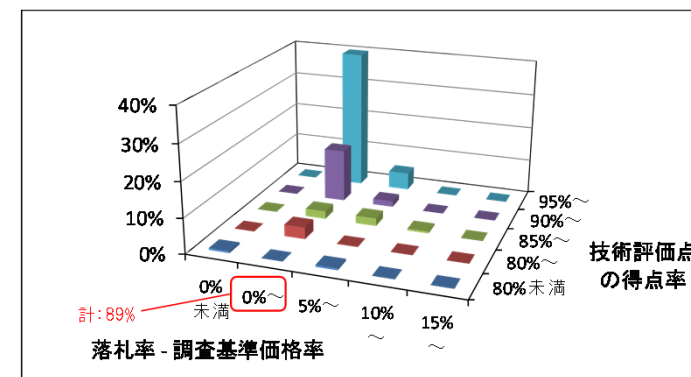
【施工能力評価型I型】
工事件数: 2121件
平均工事規模: 170百万円
平均入札参加者数: 5.4者



【技術提案評価型S型】
工事件数: 258件
平均工事規模: 239百万円
平均入札参加者数: 6.3者



【WTO技術提案評価型S型】
工事件数: 179件
平均工事規模: 1763百万円
平均入札参加者数: 15.4者



注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。

注3) 調査基準価格が設定されていない工事は除く。

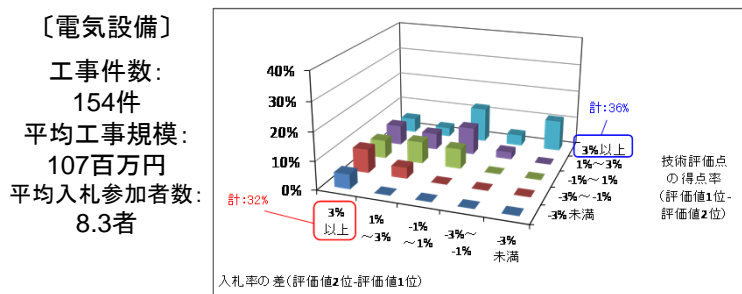
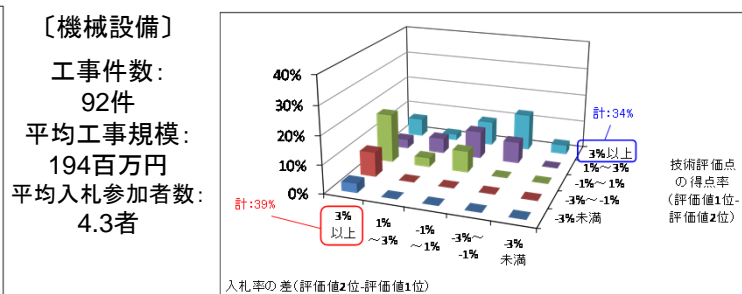
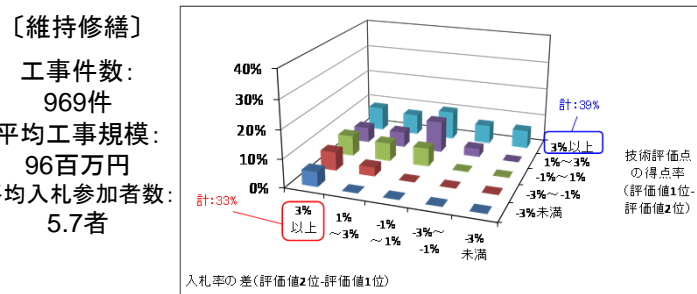
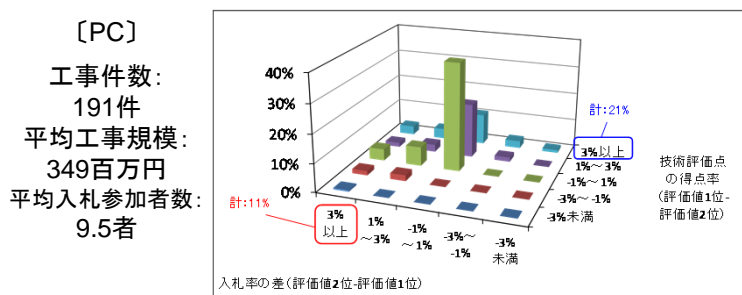
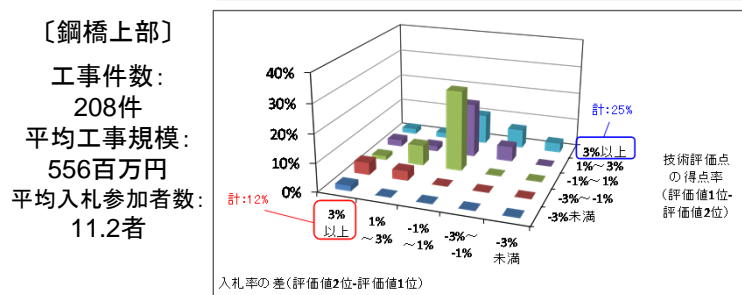
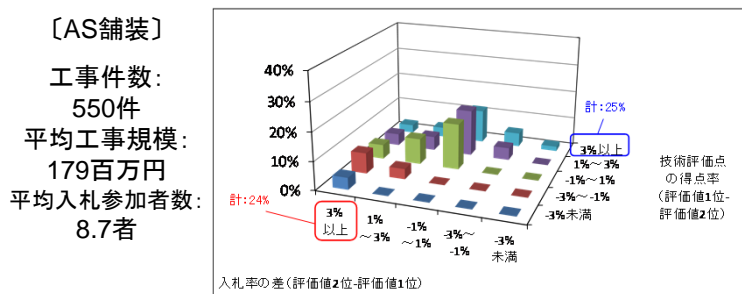
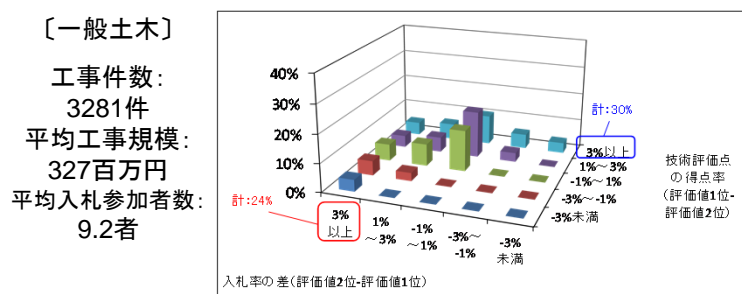
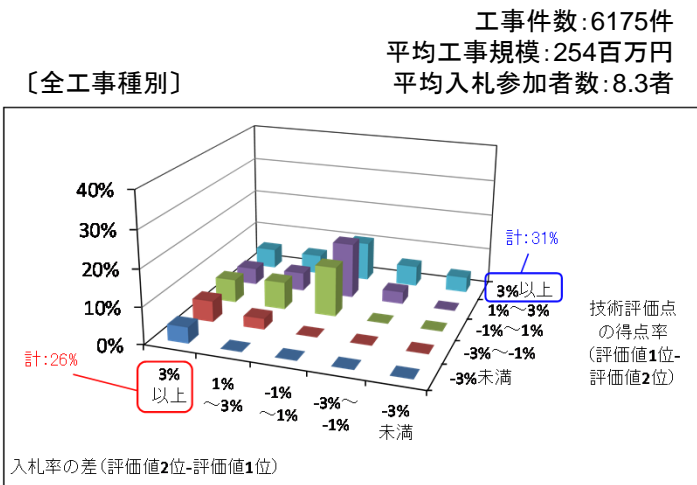
注2) 価格競争を除く。

5. 総合評価の結果と落札者の特徴(平成25年度)

(3) 落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の「入札率」及び「技術評価点の得点率」の差

① 工事種別別

■ 「鋼橋上部」と「PC」は、入札率の差が±1%に集中する度合いが顕著である。また、技術評価点の得点率の差も-1%~3%に集中しており、価格と技術の両面で差が付きにくくなっている。

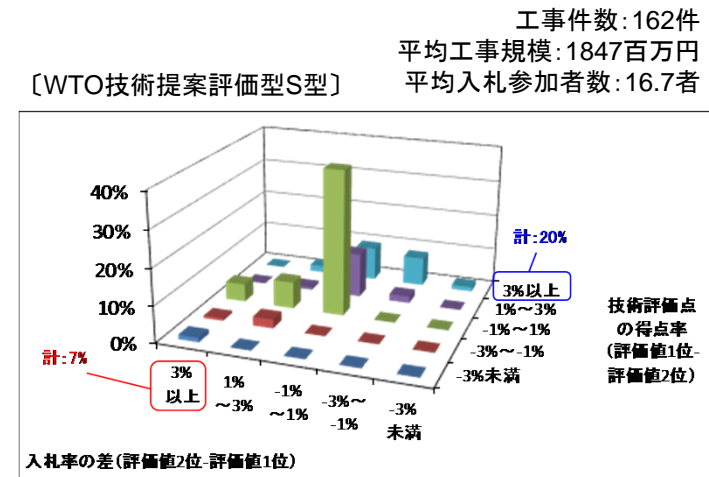
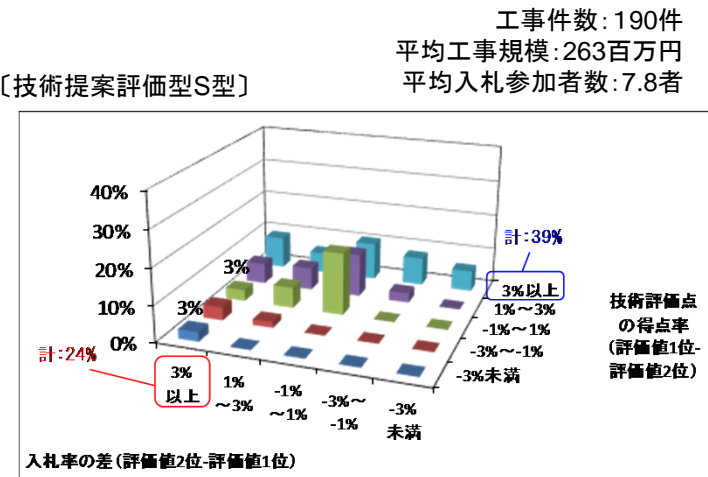
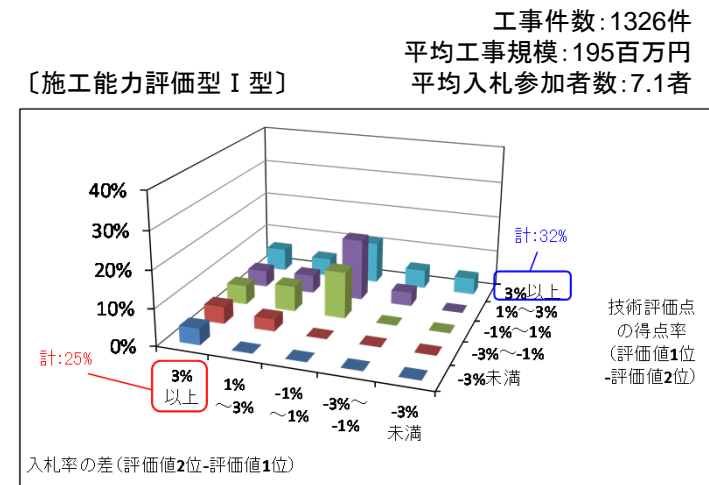
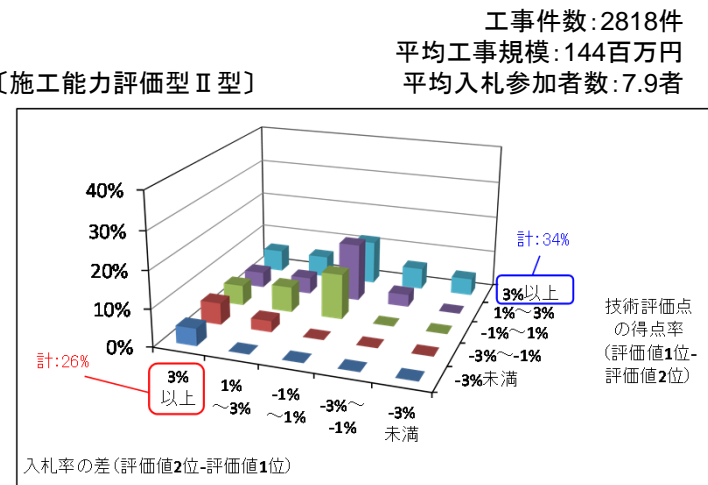
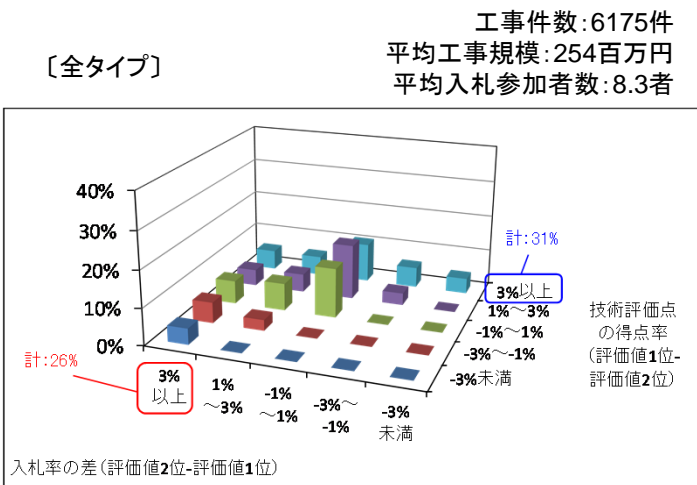


注1) 8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成24年度契約工事を対象。
注2) 予定価格内1者の案件は除く。 注3) 価格競争を除く。 注4) 落札者の内訳は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

5. 総合評価の結果と落札者の特徴(平成25年度)

②総合評価のタイプ別(新方式)

■「WTO技術提案評価型S型」は、入札率の差が±1%に集中する度合いが顕著である。また、技術評価点の得点率の差も他のタイプに比べて3%以上の差が付く割合が少なく、価格と技術の両面で差が付きにくくなっている。

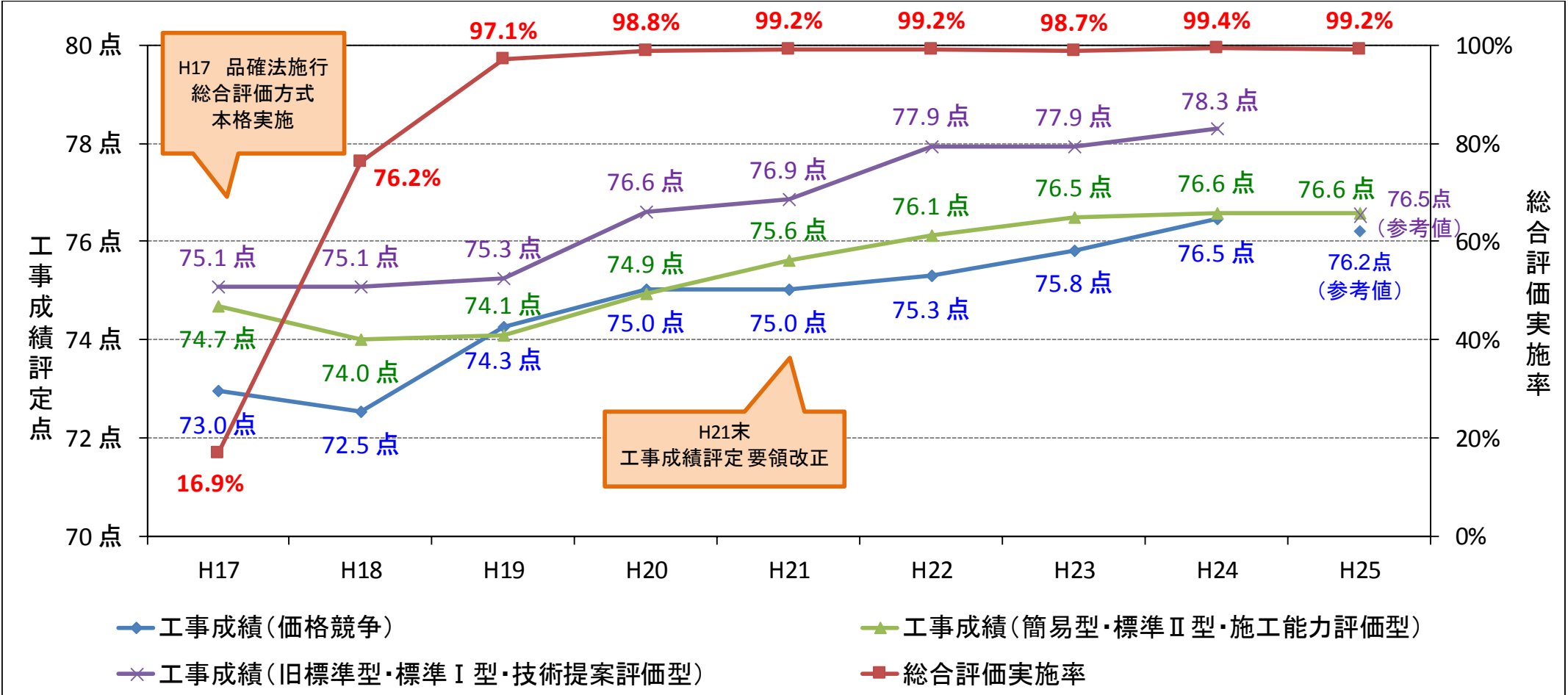


注1)8地方整備局(港湾空港関係工事を除く)の平成25年度契約工事を対象。
注2)予定価格内1者の案件は除く。 注3)価格競争を除く。 注4)落札者の内訳は、無効・辞退等及び予定価格超過者を除き判定。

6. 総合評価の導入と工事成績評定点

(1) 総合評価落札方式の実施率と工事成績評定点の変化

■ 価格競争よりも簡易型等、簡易型等よりも標準型等の工事成績が高く、品質確保、向上の効果を得られている。



注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 価格競争を含む
 注3) 注1)、注2)を満たす工事のうち、工事成績データ(平成25年度完成分まで)と契約データのマッチングができたものを対象
 注4) 各年度の工事件数は契約年度別で整理

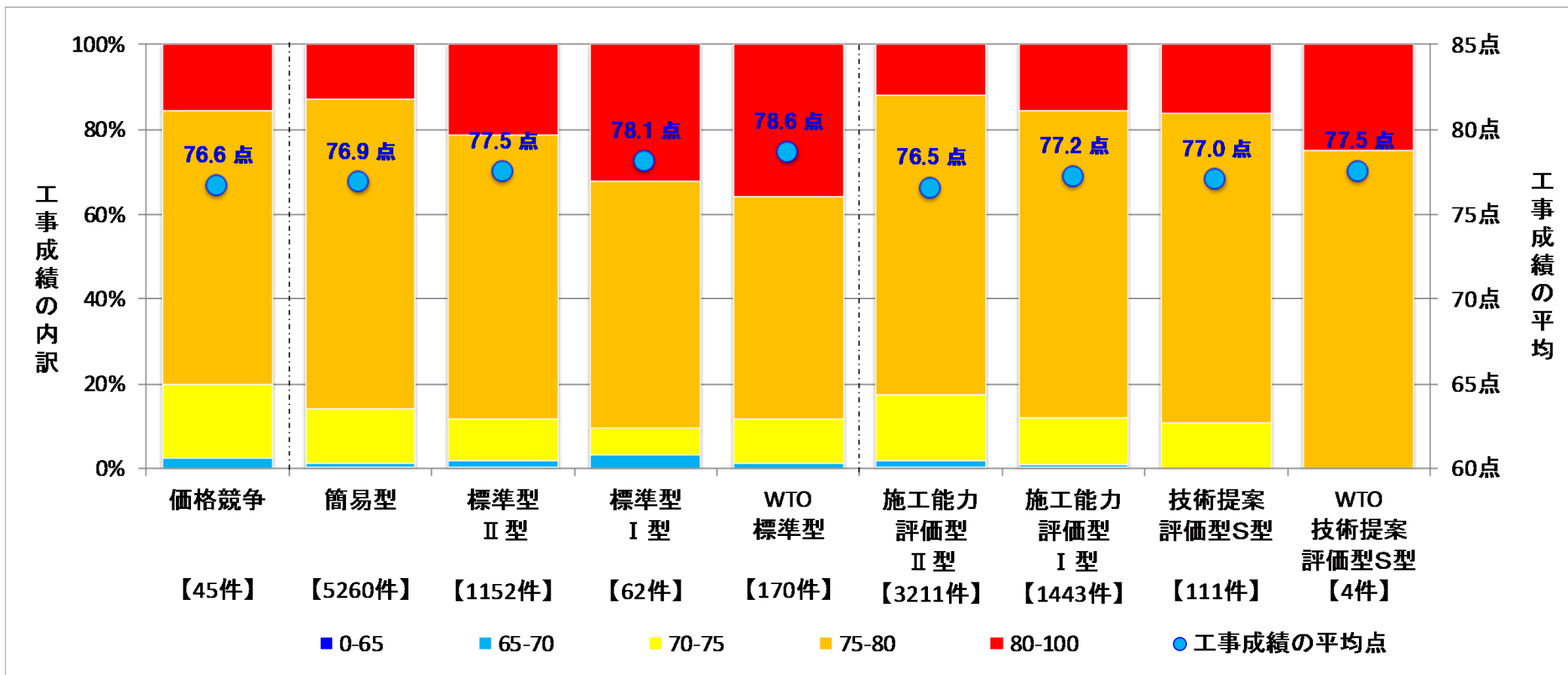
	H17件数	H18件数	H19件数	H20件数	H21件数	H22件数	H23件数	H24件数	H25件数
価格競争	7,088	2,385	2,054	827	223	193	76	31	32
総合評価(簡易型・標準Ⅱ型・施工能力評価型)	680	4,923	8,269	8,645	8,949	7,642	7,924	7,664	5,865
総合評価(旧標準型・標準Ⅰ型・技術提案評価型)	378	686	921	725	691	199	215	102	74

※H25契約・完成工事が対象となるためサンプルが少ない(参考値)

6. 総合評価の導入と工事成績評定点

(2) 総合評価のタイプと工事成績評定点

■ 従来方式、新方式ともに上位タイプを適用した工事ほど、工事成績80点以上の割合が増え、工事成績の平均も高まる傾向が見受けられる。



注1) 10地方整備局等のH25年度完成工事を対象（港湾・空港関係工事を除く）。

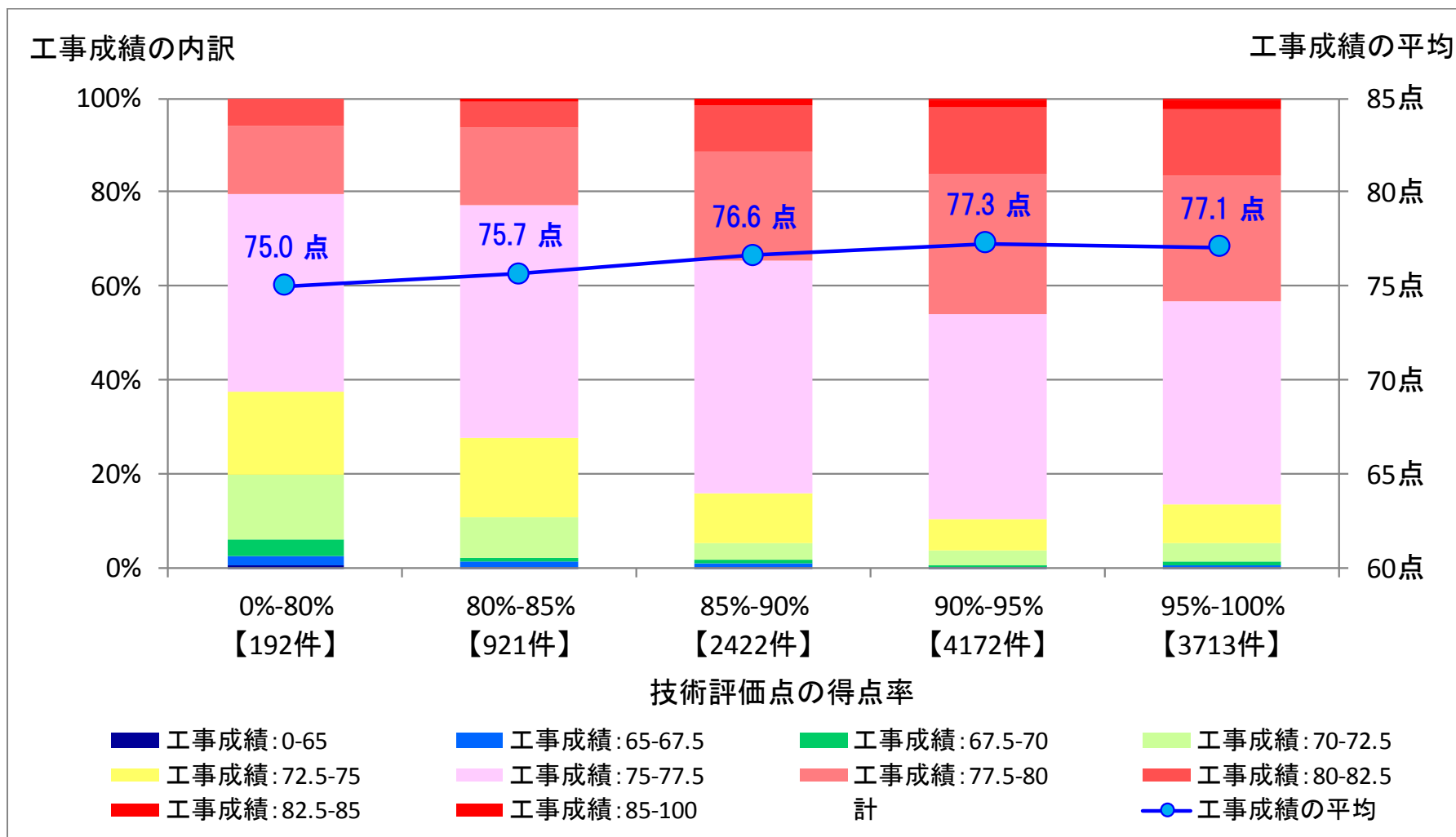
注2) 価格競争を含む

注3) 注1)、注2)を満たす工事のうち、工事成績データと契約データのマッチングができたものを対象

6. 総合評価の導入と工事成績評定点

(3) 工事成績評定点と技術評価点得点率

■ 技術評価点の得点率が高い工事ほど、工事成績評定点の平均が高く、80点以上の高評点を得る割合が多くなっている。



注1) 10地方整備局等のH25年度完成工事を対象 (港湾・空港関係工事を除く)。

注2) 価格競争を除く

注3) 注1)、注2)を満たす工事のうち、工事成績データと契約データのマッチングができたものを対象